2024年度シラバス

科目名:OK41K1303　英語コミュニケーションⅢ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This is related to the ability to communicate in English. The main aim of this course is to help students develop the skills and knowledge to engage in discussions on various topics with their classmates and teacher. The students will discuss a variety of issues and use conversational strategies to express their opinions. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to 1. have confidence and competency in listening and speaking to others.2. discuss topics and use conversational strategies to maintain conversation. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
〇統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring an English/Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 30% Homework 30% Review Test 40%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Kazushige Tsuji (2024) A Shorter Course in English for Business Meetings: Presentation (南雲堂)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour: Thursday lunch time)

01	Course introduction
02	Unit 1. 挨拶: Conversation
03	Unit 1. 挨拶: Exercises
04	Unit 2. 自己紹介: Conversation
05	Unit 2. 自己紹介: Exercises
06	Unit 3. 議題の確認: Conversation
07	Unit 3. 議題の確認: Exercises
08	Class Review & Review Test (Unit 1~3)
09	Unit 4. 目的: Conversation
10	Unit 4. 目的: Exercises
11	Unit 5. 構成: Conversation
12	Unit 5. 構成: Exercises
13	Unit 6. 所要時間・配布物: Conversation
14	Unit 6. 所要時間・配布物: Exercises
15	Class Review & Review Test (Lesson 4~6)
16	None

2024年度シラバス

科目名:OK42K1304　英語コミュニケーションⅣ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This is related to the ability to communicate in English. The main aim of this course is to help students develop the skills and knowledge to engage in discussions on various topics with their classmates and teacher. The students will discuss a variety of issues and use conversational strategies to express their opinions. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to1. have confidence and competency in listening and speaking to others.2. discuss topics and use conversational strategies to maintain conversation. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
〇統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring an English/Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 30% Homework 30% Review Tests 40%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Kazushige Tsuji (2024) A Shorter Course in English for Business Meetings: Presentation (南雲堂)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour: Thursday lunch time)

01	Course introduction
02	Unit 7. 本論: Conversation
03	Unit 7. 本論: Exercises
04	Unit 8. 調査: Conversation
05	Unit 8. 調査: Exercises
06	Unit 9. 現状・進捗: Conversation
07	Unit 9. 現状・進捗: Exercises
08	Class Review & Review Test (Unit 7~9)
09	Unit 10. 問題・課題: Conversation
10	Unit 10. 問題・課題: Exercises
11	Unit 11. 計画・対策: Conversation
12	Unit 11. 計画・対策:: Exercises
13	Unit 12. 目標: Conversation
14	Unit 12. 目標: Exercises
15	Class Review & Review Test (Unit 10~12)
16	None

科目名:0K41K1401　ＮＧＯ・ＮＰＯ論	担当者:若松 亮太	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
社会課題の解決に向けてNGO・NPOや社会起業家が果たす役割を理解し、学生が豊かな市民社会の主体となることを目指す。日本でのボランティア小史から始まり、災害復興・移民難民支援・地域づくり・障碍者支援・環境問題など主要な社会課題に関するNGO・NPOの活動を学ぶ。次に学生自ら団体を立ち上げることを想定して事業計画書を作り、法規制や組織作り、予算、事業計画、ファンディング、ネットワーク化などについて学ぶ。【AL】

授業の到達目標
・NGO・NPOの組織・役割・活動・課題について理解する。
・上記の学びと団体設立の疑似体験を通して、自ら考え表現する力と社会問題の解決に挑戦する力を身に着ける。【DP】
・問題分析や目的分析などのツールを使って、様々な課題に対しての活動や解決策を、自ら考え、表現できるようになる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：授業テーマに沿って自分でNGO・NPO活動について調べる。あるいは関連する文献を読み込み、自分が発見したことや自分の意見をまとめておく。
事後学修：テーマに沿って情報を集め、クラスでの学びや議論に基づいてレポートを書く。
以上を含め、毎週4時間の授業外の学修が必要。

評価方法
授業態度（発言など）（20%）、授業内課題レポートの提出（30%）、NGO・NPO団体事業計画書（50%）。レポートや計画書は添削し、授業内でFBを行う。

教科書	参考図書
授業用に配布するプリントやスライドで提示する。	「ボランティアが社会を変える」（柳田 邦男/黒田 裕子/大賀 重太郎/村井 雅清【共著】、2006年、関西看護出版）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段、オフィスアワーに関しては、最初の授業で案内する。

01	NGO・NPOとは　（イントロダクション）
02	日本におけるNGO・NPO活動の始まり
03	社会課題とNGO・NPO①（災害復興）
04	社会課題とNGO・NPO②（移民難民支援）
05	社会課題とNGO・NPO③（地域づくり）
06	社会課題とNGO・NPO④（障碍者支援）
07	社会課題とNGO・NPO⑤（環境問題、SDGｓ）
08	NGO・NPOをつくる①（社会課題の把握）
09	NGO・NPOをつくる②（組織の立ち上げ、約款、法規制）
10	NGO・NPOをつくる③（予算、事業計画、事業運営）
11	NGO・NPOをつくる④ファンディング（行政支援、寄付）
12	NGO・NPOをつくる⑤ネットワーク化
13	NGO・NPOをつくる⑥社会へ向けて（提言活動、政治交渉）
14	NGO・NPOと国際社会（オーストラリアのICANの事例）
15	学びを踏まえてのディスカッション「私の作りたいNGO・NPO」 プレゼンテーション(2)、まとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK41K1402　現代社会と企業	担当者:塚本 高浩	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義は、「社会人基礎力」を自ら育み、桜花学園大学の建学の精神である社会の発展に寄与する「信念のある女性」としての基礎を培うための科目群に位置づけられている。統計データを用いて私たちの社会や企業に関して概観し，社会人基礎力の養成を目指す。本講義では、3回程度のレポート課題を実施する。

授業の到達目標
世の中の統計データを適切に解釈することが出来る。また、わたしたちが住んでいる地域には様々な種類の産業が存在し，それらが互いに投入産出構造などを通じて関連しあっていることを理解する。さらに、就職し「社会人」になるということは、「組織人」として行動することが求められることであるということを理解することができる。その上で、個人ではできないことをやりとげるためにつくられた「協働システム」としての組織のあり方や個人との関わり方について、自らの考えをもつことができるようになる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業の進行に合わせて具体的な事例を自分で調べること、自分の考えを述べることが求められる。そのため、事前・事後を含めて4時間程度の授業外学修が必要である。

評価方法
３回程度のレポート(100%)
課題や質問に対するフィードバックは、次回講義の冒頭に実施する。

教科書 使用せず	参考図書 授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義時間外での質問は、メールですること。メールアドレスは、講義中に開示する。

01	イントロダクション
02	人口
03	高齢化
04	産業
05	産業連関
06	国民経済計算
07	労働
08	賃金
09	政府
10	社会保障
11	金融
12	環境
13	立地
14	交通
15	総括
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK41K1403　地域協力演習	担当者:根尾 文彦	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業においてはディプロマポリシーに沿って、修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身につけることが望まれる。少子高齢社会の我が国が今後発展するためには「地域の活性化」が重要なテーマとなっている。本授業では地域の歴史、文化、伝統、生活様式などを学びながら、大学生としてどのように地域と交流し、いかに地域に貢献できるかをフィールドワーク実習を通して学修する。フィールドワークは時間的理由から正規授業時間外で実施する場合がある。
レポート作成2回、レポート発表2回。

授業の到達目標
①地域の重要性を理解して社会との関連性を理解している。（DP） ②有松の歴史、文化などを理解して、有松の活性化に向けた提案を行う。（DP）③自分の地元の歴史、文化、社会等について理解し、地元の課題解決に向けた発表を行う。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
フィールドワークで訪れる地域及び自分の住む町に関心を持ち、文献、資料などから情報を収集する。フィールドワークは現地までの移動時間、現地での調査などにおいて時間が掛かるため、通常の授業時間帯でなく、全員が揃う日時（場合によっては土・日・休日を含む）にて実施する場合がある。受講生確定後、速やかに決定するが、その場合は通常授業時間は振り替えとする。
事前学修、事後学修として週に4時間程度の学修が望まれる。

評価方法
授業への参加態度（40%）、フィールドワークレポート（30%）、私の住む町レポート内容・発表（30%）レポートに対してはメール・ムードル等でフィードバックする。発表に対してはその都度口頭にてフィードバックする。

教科書	参考図書
特になし、プリント等を配布	「有松絞り」有松町史」は図書館にあり

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7307号室

01	4/8　（月） オリエンテーション（シラバスの説明）、「地方創生」と地域学修の概念
02	4/13 （土）有松の歴史、文化と産業を学ぶ①（講義）
03	4/15 （月）有松の歴史、文化と有松絞りを学ぶ②（外部講師）
04	4/22 （月） 有松フィールドワーク（日本茶文化体験実費1,000円、ボランティアガイド付き）
05	5/6　（月）有松絞り体験（実費2,200円）
06	5/13 （月）有松福寄せ雛制作
07	5/20 （月）有松フィールドワーク（各グループ毎で調査）
08	5/27 （月）「私たちが考えるこれからの有松の姿」レポート作成①（グループワーク）
09	6/3　（月）＊有松絞りまつりに参加してボランティア活動（＊6/1・2に有松にて実施）
10	6/10 （月）「私たちが考えるこれからの有松の姿」レポート発表（グループワーク）
11	6/15（土） 私の住む町を学ぶ①（各自で現地調査）
12	6/17（月） 私の住む町を学ぶ②（各自でレポート作成1回目）
13	7/8　（月） 私の住む町を学ぶ③（各自でレポート作成2回目）
14	7/15 （月）私の住む町を学ぶ④（発表会1回目）
15	7/22（月） 私の住む町を学ぶ⑤（発表会2回目）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK41K1301　英語コミュニケーションⅠ	担当者:佐分 ジュディス スミス	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators [DP]. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics [EN] [AL].

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics [DP]and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker [EN] [AL].

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks [EN] [AL].

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Feedback through graded homework vocabulary sheets.
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%
Feedback through presentation rubrics.

教科書	参考図書
Active Skills for Communication Book 2 by Chuck Sandy and Curtis Kelly. HEINLE Cengage Learning.	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly. Students who miss 6 classes will receive an F.

01	Unit 1 Class Facebook (Interrogatives, Verb phrases)
02	Unit 1 Class Facebook (Infinitives, Personal Information)
03	Unit 2 Personal Motto (State of being verbs)
04	Unit 2 Personal Motto (Adjectives, Prepositions)
05	Review and Assessment (Unit 1 - Unit 2)
06	Unit 3 Tall Tales (Past progressive tense & past simple tense)
07	Unit 3 Tall Tales (Storytelling expressions, Adjectives).
08	Unit 4 Keepsakes (Keepsake items, Time expressions)
09	Unit 4 Keepsakes (Present perfect tense, Present perfect continuous tense)
10	Review and Assessment (Unit 3 - Unit 4)
11	Unit 5 Team Spirit (Plural/ singular nouns)
12	Unit 5 Team Spirit (Discussion expressions)
13	Unit 6 Hot Spots (Locations, Adjectives)
14	Unit 6 Hot Spots (Gerunds & infinitives, Activities)
15	Review of all units and speaking test (final assessment).
16	No test

科目名:OK42K1301　英語コミュニケーションⅡ	担当者:佐分 ジュディス スミス	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators [DP]. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics [EN] [AL].

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics [DP] and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker [EN] [AL].

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks [EN] [AL].

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Feedback through graded homework vocabulary sheets.
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%
Feedback through graded presentation rubrics.

教科書	参考図書
Active Skills for Communication Book 2 by Chuck Sandy and Curtis Kelly. HEINLE Cengage Learning.	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly. Students who miss 6 classes will receive an F.

01	Unit 7 Class Cookbook (Cooking-related vocabulary)
02	Unit 7 Class Cookbook (Imperatives, Sequencing expressions)
03	Unit 8 Business Venture (Definite or indefinite articles)
04	Unit 8 Business Venture (Business vocabulary)
05	Review and Assessment (Unit 7 - Unit 8)
06	Unit 9 Job Interview (Verb phrases, Modals and related expressions)
07	Unit 9 Job Interview (Job-related vocabulary)
08	Unit 10 TV Preview (TV show & movie vocabulary)
09	Unit 10 TV Preview (Relative clauses) 10. Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10) Unit 10 TV Preview (Relative clauses) 10. Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10) Unit 10 TV Preview (Relative clauses)
10	Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10)
11	Unit 11 Public Opinion (Hypothetical situations)
12	Unit 11 Public Opinion (Reporting results)
13	Unit 12 Mini Debate (Position statements)
14	Unit 12 Mini Debate (Debate issues)
15	Review of all units and speaking test (final assessment).
16	No test

2024年度シラバス

科目名:OK21L0401　環境の科学	担当者:辻 広志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は、桜花学の「自然を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この授業では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考えます。プリントと視聴覚教材を使用した講義（10回）、小グループ内でのレポート発表（4回）、野外実習（１回）を行います。【AL】

授業の到達目標
地球環境、生態系のしくみ、生物多様性について理解し、環境保全活動の実践方法を知る。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
環境問題・自然環境・野生生物に関する最新の情報を、新聞やテレビ、インターネット等で入手することを心がけてください。

評価方法
レポート試験50%、平常点50%（授業感想文、ミニレポート、授業への参加態度）で総合評価します。授業において提示した課題については、次回以降にフィードバックを行います。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・この授業は、初回から受講することが求められており、2回目以降からの受講は避けて下さい。
・天候等により授業計画を変更することがあります。
・質問等がある場合は、Moodleかメール、もしくは研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：環境問題と私たちの暮らし
02	生物多様性と自然の恵み
03	生態系のしくみと生き物どうしのつながり
04	植物の種子散布と身近な雑草の生存戦略（ミニレポート発表）
05	野外実習：キャンパスの自然観察（樹木の葉の観察）
06	外来生物が生態系に及ぼす影響
07	地球温暖化が生物に及ぼす影響（ミニレポート発表）
08	有害化学物質・環境ホルモンによる環境汚染
09	エネルギー資源利用による環境負荷
10	自然保護区による生態系の保全
11	レッドリストと絶滅危惧生物の保全
12	企業・市民による環境保全活動（ミニレポート発表）
13	ビオトープと自然再生事業
14	女子学生の自然体験と身近な生き物アンケート
15	課題レポート発表
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK21L0402　食と生命の科学	担当者:辻岡 和代、木村 達志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は、桜花学の「自然を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この授業では、食および生命の科学に触れ、現代社会に不可欠な自然科学的な見識を深めます。1回目は合同で講義を受け、その後2グループに分かれ、それぞれの教員から７回ずつ受講するオムニバス形式の授業形態とします。7回のうち、木村は講義（5回）、プレゼンテーション（2回）を行い、辻岡は、演習（５回）、プレゼンテーション（2回）を行います。【AL】

授業の到達目標
・食の科学に関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深めることができる【DP】（辻岡）
・科学的根拠をもとに学生同士で意見交換し、食の重要性を他者に伝える能力を養うことができる【DP】（辻岡）
・生命科学に関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深めることができる【DP】（木村）
・科学的根拠をもとに、健康管理の基本である体重管理の重要性を他者に伝える能力を養うことができる【DP】（木村）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・毎回、準備学修として事前課題を出しますので、取り組んでください。（辻岡）
・食に関する情報の科学的根拠を授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。（辻岡）
・受講期間中は体重測定や生活活動記録を行いますので、正確なデータを記録して下さい（木村）
・巷にあふれる健康に関する情報について、取捨選択する力を養ってください。（木村）
（各授業４時間程度）

評価方法
平常点（授業態度・グループ学習・実験の取り組み・プレゼンテーション等）40%、レポート課題（2人の教員がそれぞれレポート課題を課します）60%の割合で評価します。提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行います。

教科書	参考図書
特になし	授業内で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・受講者の上限100名を超えた場合は抽選とします。
・質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付けます。詳細については授業で開示します。
・この授業は、初回から受講することが求められており、2回目以降からの受講は避けて下さい。
・授業にはパソコンを持参して下さい。
・100ｇ単位で測定できる体重計を用意して下さい。

01	食と生命の科学に関するオリエンテーション　（辻岡・木村）
02	食の科学：栄養素と科学的根拠　（辻岡）　【AL】
03	食の科学：栄養素の検出実験（辻岡）
04	食の科学：清涼飲料水の科学実験（辻岡）　【AL】
05	食の科学：食品添加物に関する知識と着色料の抽出実験（辻岡）
06	食の科学：食品の化学変化がもたらす調理実験（辻岡）
07	食の科学：食の調べ学習に関するプレゼンテーションと振り返り（辻岡）　【AL】
08	食の科学：食の実験に関するプレゼンテーションと振り返り（辻岡）　【AL】
09	生命の科学：レコーディングダイエットとは（木村）
10	生命の科学：体重を正確に測定する方法（木村）
11	生命の科学：基礎代謝量、生活活動強度、栄養所要量の算出（木村）
12	生命の科学：身体運動により消費されるエネルギー（木村）
13	生命の科学：自身のBMIの算出と日本人のBMIについて（木村）
14	生命の科学：行動変容と体重変化についてのプレゼンテーション前半グループ（木村）【AL】
15	生命の科学：行動変容と体重変化についてのプレゼンテーション後半グループ（木村）【AL】
16	

科目名:OK21L0403　生き物の社会	担当者:原野 智広	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限: 受講者上限を100名とし、超えた場合は抽選とします		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は、桜花学の「自然を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この授業では、生物がいかにして生き残り、子孫を残しているのか、生物どうしがどのように関わり合って生きているのかを学びます。また、さまざまな生物の存在を認識して理解するために必要な知識として、生物の進化と分類を学びます。講義（11回）、プレゼンテーション（4回）を行います。【AL】。

授業の到達目標
・進化について正しく理解する。【DP】
・生き物どうしの関わり合いについて理解する。【DP】
・生物の分類階級を理解し、分類の表記から生物を区分できるようになる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
〇価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・地球上にどのような生き物が存在しているのかを考えてみること。
・好きな生き物について、姿かたちや生態にどのような特徴があるのか、その特徴を持っているのはなぜかを考えてみること。

評価方法
平常点（プレゼンテーション・授業態度・提出物等）50%、レポート試験50%の割合で評価します。提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行います。

教科書 使用しない	参考図書 授業内で適宜紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・受講者の上限を100名とし、超えた場合は抽選とします。
・質問等は、Moodleまたは授業の前後の時間で受け付けます。詳細については授業で開示します。

01	生き物を知る
02	生物の分類
03	生物の歴史的なつながり
04	生物の進化
05	自然選択と適応
06	進化の事実と誤解
07	さまざまな生物に関する発表（前半）
08	さまざまな生物に関する発表（後半）
09	性選択
10	メスとオスの関わり合い
11	生物の絶滅
12	同じ生物種内の関わり合い
13	異なる生物種間の関わり合い
14	生物とヒトの関わり合いに関する発表（前半）
15	生物とヒトの関わり合いに関する発表（後半）
16	なし

科目名:OK22K1001　スポーツⅠ	担当者:鬼頭 茉衣	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、ボクササイズを通してボクシングの基礎的な技術の習得及び、体力/筋力の向上を目指す。ボクササイズとは、音楽のリズムに合わせてボクシング特有のステップ・パンチコンビネーションを繰り出すエクササイズのことである。ボクシングの基礎的な技術を習得するだけでなく、身体に対する意識を高め、ボクササイズによる身体コンディショニングの基礎を学習する。また、ボクササイズだけでなく適宜、体つくり運動も実施する。

授業の到達目標
・ボクシングの特性を理解し、基礎的技術のパンチ動作(ジャブ・ストレート・フック・アッパー)および、ディフェンス動作(ダッキング・ウィービング・スウェー)を身に付けることができる(DP)
・基礎的技術を応用し、様々なコンビネーションが繰り出せるようになる
・無酸素・有酸素の動作を繰り返すことにより、筋力及び体力が向上する(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ボクシングに関する動画を観るなどして、動作のイメージを把握しておくと良い。

評価方法
・授業への参加/学習態度 60%、課題/レポートの提出 40%
・フィードバックについて：提出された課題/レポートは、評価した上で適宜、授業内で課題点、留意点を伝える。

教科書	参考図書
使用しない	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	オリエンテーション(授業概要説明)
02	ボクシングの基礎的動作の習得①（ステップ・構え方・ジャブ・ストレート）
03	ボクシングの基礎的動作の習得②（ステップ・ワンツー）
04	ボクシングの基礎的動作の習得③（ステップ・左右のフック）
05	ボクシングの基礎的動作の習得④（ステップ・左右のアッパー）
06	ボクシングの応用技術の習得①（コンビネーションⅠ）
07	ボクシングの応用技術の習得②（コンビネーションⅡ）
08	ボクシングの応用技術の習得③（ダッキング・スウェー・ウィービングⅠ）
09	ボクシングの応用技術の習得④（ダッキング・スウェー・ウィービングⅡ）
10	ボクシングの応用技術の習得⑤（コンビネーションⅣ）
11	総合ボクササイズ①（習得した技術を全てを組み合わせたボクササイズⅠ）
12	総合ボクササイズ②（習得した技術を全てを組み合わせたボクササイズⅡ）
13	ボクシング技術の活用①（ボクシング動作を用いた体つくり運動・タッチゲームによる実践Ⅰ）
14	ボクシング技術の活用②（ボクシング動作を用いた体つくり運動・タッチゲームによる実践Ⅱ）
15	ボクササイズ総まとめ
16	

2024年度シラバス

科目名:OK22K1002　スポーツⅡ	担当者:伊藤 僚	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
安定したラリーの修得をめざし、さらにはダブルスを中心とした試合形式のゲームを楽しむことができる。

授業の到達目標
サーブとリターン、ボレーやドロップができることを目標とする。
ダブルスゲームを通してポジショニングやパートナーちにコミュニケーションを学び(DP)、さらにテニスにおけるルールやマナーを深める（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
テニスは屋外で行う体力のいるスポーツです。日頃からの運動で基礎体力を身に付けておいてください。

評価方法
授業への参加態度80%　確認テスト20%
フィードバックは、授業時等において確認テスト等について個別あるいは全体へ行う。

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
運動の出来る服装（ジャージ）に着替え、運動の出来る靴を必ず履いてください。

01	ガイダンス　用具の説明
02	正確なグリップの理解
03	フォアハンドストロークの基礎
04	フォアハンドストロークの応用
05	バックハンドストロークの基礎
06	バックハンドストロークの応用
07	サーブの基礎①
08	サーブの基礎②
09	ドロップショット
10	スライスショット
11	ゲームのマナー及びルール
12	ダブルスゲーム①
13	ダブルスゲーム②
14	ダブルスゲーム③
15	確認テスト
16	

2024年度シラバス

科目名:OK22K1002　スポーツⅡ	担当者:安江 あ也香	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
スポーツには様々な種類がある。
ボールを扱うスポーツには｢ゴール型｣,｢ネット型｣及び｢ベースボール型｣というものが存在している。
その中でも教育現場に取り入れられているスポーツとして、本講義ではバドミントンと野球型競技（ベースボール5等）を行う。
バドミントンの魅力のひとつは、だれでも手軽に楽しむことができる点にある。技術と戦術を学ぶことにより、運動量の多さや、技術の奥行きの深さ、戦術の複雑さに驚かされる。ダブルスゲームのフォーメションの理論と戦術、バドミントンの楽しさを体験する。
また、もう一つの野球は日本で長く親しまれてきたスポーツである。
甲子園やプロ野球というのは多くの人を熱狂させてきた。しかし、ここ数年競技人口も減り、ルールや用具の多さから子どもたちの中では苦手意識を感じるスポーツととらえられているということも現状である。近年そんな背景から、野球への入り口としてベースボール5という新競技が誕生した。野球という技術やルールを習得しつつ、誰もが楽しめるスポーツとは何なのか？プレーをしながら一緒に考えていく。

上記の種目の体験を通して運動感覚を習得し、生涯にわたって年齢と体力に応じた豊かなスポーツライフを送るための基盤づくりをする。

授業の到達目標
・準備運動、整理運動の重要性を理解し、傷害の予防に留意してスポーツに親しむことができる。
・スポーツの場の空間配置を整え、安全に留意したスポーツ行動を習得することができる。
・市民スポーツの愛好者団体に参加し、リーダーシップを発揮することができる。
・選択履修したスポーツ種目の特性を理解し、基本的技術、ルール、マナー、審判法を修得し、市民スポーツ競技会等に参加することができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配布資料からルールや技術、戦術、歴史の予習復習をする。

評価方法
授業への積極的な参加度と技術的な進歩度によって総合的に評価する。授業への取り組み50%、種目特性の理解及び技術の習得度50%。
フィードバックは、授業時等において、提出物やパフォーマンス等について個別あるいは全体講評にて行う。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
それぞれのスタート地点は違います。毎回の授業で全体の目標以外に、自らの目標を設定し、あきらめずに努力を重ねましょう。小さな進歩の積み重ねが、スポーツの楽しさへとつながります。

01	オリエンテーション．授業の進め方の説明など。
02	ラケットの使い方　シャトルの特性、ラリーを楽しむ
03	ショットⅠ　(ハイクリア・ドライブ・ヘアピン)ダブルス簡易ゲーム
04	ショットⅡ　ダブルスゲームのルールと審判
05	ショットⅢ　（プッシュ・ロブ・スマッシュ）ダブルスゲーム
06	ダブルスのフォーメーションの応用
07	運動感覚の習得Ⅰ　ダブルスゲーム①（戦術の練習、実践）
08	運動感覚の習得Ⅱ　ダブルスゲーム②（仲間との戦略を組み立てて戦う）
09	キャッチボール　ボールの投げ方、捕り方
10	攻撃練習Ⅰ　打ち方　ミニゲーム
11	攻撃練習Ⅱ　走り方　ミニゲーム
12	守備練習Ⅰ　捕球方法
13	守備練習Ⅱ　戦術
14	試合Ⅰ
15	試合Ⅱ　振り返り
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK41K1101　統計学	担当者:髙瀬 慎二	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
現代では多種多様な数値データが蓄積され、課題解決に活用されている。また、研究論文を読み解く、あるいは調査研究を行う際などに統計学の知識を活用する場面もある。本講義では、数値データの処理や解釈に必要となる統計の知識や理論を学び、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身に付けること、さらには「総合的な人間力」を養うことを目的とする。講義ではMicrosoft ExcelやWeb上の統計ソフトを利用し、データ分析の演習課題も行う。

授業の到達目標
数値要約の概念について理解し、各種統計量を計算により求めることができる。数値データの種類に応じて適切な図や表で示すことができる（DP）。数値データに応じた適切な統計的分析を自身のパソコンで行える。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書や配布資料の該当箇所を確認する、演習課題を行うなどにより平均して４時間程度の授業外での予習・復習が必要である。

評価方法
確認テスト（60%）、授業内の課題（40%）
課題のフィードバックとして授業内課題については解答を当該授業後にウェブ上で提示する。また、特に理解が難しかったと思われる設問は次回授業時に解説を行う。確認テストについては希望者に得点を開示する。

教科書	参考図書
荒川俊也「Excelによるやさしい統計解析」オーム社、ISBN：978-4274226120	南風原朝和「心理統計学の基礎」有斐閣アルマ、ISBN：978-4641121607

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義時間外での質問は、メールで行うこと。メールアドレスは、講義中に開示する。

01	統計学についての概要、データの種類（尺度水準）
02	度数分布表、ヒストグラム
03	代表値、散布度
04	表やグラフの種類とその特徴
05	母集団と標本、正規分布
06	標準化
07	母集団の推定、不偏推定量
08	区間推定
09	統計的仮説検定の考え方、１つの平均値の検定
10	２つの平均値の検定（t検定）
11	３つ以上の平均値の検定（分散分析）
12	相関（２変数の関係）
13	回帰分析（単回帰分析）
14	回帰分析（重回帰分析）と講義全体の振り返り
15	確認テストとまとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK42K1101　社会調査法	担当者:南 裕一郎	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義では、社会調査（social research）の理論と技法について学ぶ。社会調査は「社会」のすがたを明らかにする手段です。明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査方法の選定、調査の設計、実査、データの分析と命題の提示にいたるまでのプロセスを科学的・客観的に処理する方法について詳説します。
社会調査には、量的調査と質的調査という2つの調査タイプがあります。社会のすがたを数量的に把握するには量的調査が適しており、個人や集団の多様性を洞察的に把握するには質的調査が適しています。調査方法が何であれ、調査を実施する私たち自身もその社会の一員であることを忘れてはいけません。「社会調査する」ことは、自分とは何か、自分と社会はどうつながっているのかについて考えるきっかけにもなるのです（桜花学「社会を知る」「人間を知る」「自分を知る」に該当）。

授業の到達目標
【リサーチ・リテラシー】社会調査の理論・方法論・実践的技法を修得し、卒業論文などでアンケート調査、インタビュー調査などを実施できるようにするとともに、論文やレポート、報告書等の作成に必要な論理的な文章の書きかた・構成のしかたについても身につける。（DP）
【人間や社会への洞察力】日常生活を通して社会のしくみへの思考力・想像力を高め、社会に関わる集団や人間がいかに多様であるかを知ることができるようになる。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
（1）日頃からマスメディア、インターネットなどにあふれているさまざまな調査（アンケート、インタビューなど）について目配りし、私たちの社会がどうなっているのか、どんな仕組みで動いているのかについて考える習慣をつけること。また、授業で配布された印刷教材をかならず事前・事後に読んでおくように。
（2）ほぼ毎回、社会調査について取り上げた番組を視聴します。ネット上で視聴可能なものもあるので、授業内で観た以外の回についても観ておいてください。
（3）授業内でパソコン（おもにExcel）を使用する回があります（3回程度）。日ごろから積極的にExcelを使うように心がけてください。（各回の自主学習時間：240分）

評価方法
①期末レポート：70%（各自で社会調査を実施し、その調査報告書を期末レポートとして提出する）、②授業への参加態度：10%、③授業内で課す課題（5～6回程度）：20%、の評価を合算し、総合的に評価します。
【授業内の課題等に対するフィードバック方法】
1.　課題については、次回の授業内で正答を示します。また提出された回答を提示し、個別にコメントを加えていきます。
2.　期末レポートに向けて作成する調査計画については、メール等で個別に指導・アドバイスをおこないます。
3.　提出された期末レポートについては、全体的な総括をメール等でおこない、希望者に対しては個別の講評をしていきます。

教科書	参考図書
市販テキストは使用せず、オリジナルの印刷教材を毎回配布します。	授業内で適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
4年次に卒業研究でアンケートやインタビュー、観察などの「社会調査」を実施しようと考えている人はぜひとも受講してください。なお、期末レポートは毎回の授業への出席がなければ到底作成できないので、意欲ある人の積極的な参加を要件とします。
担当者との授業時間外のコミュニケーション（授業内容への質問を含む）は、基本的にメールまたはMoodle等でおこなってください。

01	社会調査の目的
02	社会調査の意義・歴史・課題
03	社会調査の手順①：問題意識をもち、調査テーマを決定する
04	社会調査の手順②：仮説を構築し、調査方法を決定する
05	社会調査の手順③：収集データを分析する
06	社会調査の手順④：分析結果の解釈と調査結果の作成
07	因果関係と相関関係
08	統計データをもとにさまざまな分析をおこなう（e-Statを使用）
09	量的データ収集の方法――サンプリング（単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出など）
10	質問紙調査票を作成する（ワーディングの重要性）
11	データ入力とさまざまな統計分析をおこなう（Excelでのクロス集計、グラフの作成）
12	観察調査の実践（フィールドワーク、参与観察、行動観察など）
13	インタビュー調査の技法（アポイントメントの取り方、質問の仕方、インタビューの練習）
14	レポート・論文の書き方
15	リサーチ・リテラシーを身につけるためには
16	なし

科目名:OK42K1102　情報社会論	担当者:佐久間 潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義は、「社会人基礎力」を自ら育み、桜花学園大学の建学の精神である社会の発展に寄与する「信念のある女性」としての基礎を培うための科目群に位置づけられている。
急激に情報化が進む現代社会の中では情報を自ら取得してリアルタイムで変化していく環境に対応するために活用していくことが必要である。授業の中でコンピュータを利用して小テストを実施する。また、情報社会と情報について学んだ結果、自分たちが将来を含んで情報社会とどのように接したら良いかを検討し、プレゼンテーションする。

授業の到達目標
身の回りの情報化を意識し、今後変化していく社会の中でも情報の適切な活用ができるようになる。
【ＤＰ】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
〇価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
普段利用しているディバイス（パソコン・スマートフォン・ソーシャル・メディアなど）について、自分の生活を豊かにするためのより便利な使い方がないかを探す。
各授業について必要時間（1時間）

評価方法
平常点（授業態度・プレゼンテーション等）30%、レポート・テスト等70%の割合で評価する。
課題等に対するフィードバックについては、印刷物などで返却する。

教科書	参考図書
特になし、資料は適宜配布	必要に応じて適宜提示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・毎回、パソコン使用します。
・質問等はメール（sakuma@ohkagakuen-u.ac.jp）または、情報総合センターで受け付けます

01	情報化社会とは（オリエンテーションを含む）
02	情報メディアとその変遷(1)　メディアとは、身体・文字・活字メディア
03	情報メディアとその変遷(2)　映像・電気・電波メディア
04	情報メディアとその変遷(3)　デジタルメディア
05	情報の取得・加工・利用
06	コンピュータ社会とネットワーク社会
07	コンピュータ社会からデジタルネットワーク社会へ
08	情報社会の発展
09	成熟する情報社会
10	情報社会における社会情報システム
11	情報社会と生活
12	情報社会と情報公開
13	情報社会と情報財産
14	情報社会と情報保護
15	情報社会と犯罪・倫理
16	試験（moodleまたはForms）

2024年度シラバス

科目名:OK21K1201　インターンシップ（国内）A	担当者:笹生 友広	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　本科目では桜花学園大学ディプロマポリシーにある、「高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与すること」ができる能力を身につけることを目指す。
　原則として夏季・春季休み期間を利用して、一般企業、各種団体などにおける職場体験を通して、組織の仕組み、仕事の流れ及び労働への理解を深める。卒業後のキャリアプラン（就職活動を含む）の設定において、自分が将来希望する職種などについて実習を通して学ぶことは非常に有意義である。
　基本実習期間は1週間または30時間以上とする。

授業の到達目標
①社会において大切なコミュニケーション能力を実体験において修得する。（DP）
②企業、組織の役割、公権力を実体験において学修する。（DP）
③卒業後のキャリアプランを見据えた業界情報を修得する。（DP）
④インターンシップ後の発表会において成果を報告する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
「保育学科」
　◎他者と交流・協力し、学び合う力　○課題解決力
「国際教養こども学科」
　◎多文化共生社会に必要な異文化受容能力　○課題解決力と論理的思考力
「国際学科」
　◎地域・国際社会の実践的・文化的問題への理解力
　○国際社会の課題への批判的思考、論理的・創造的発信による主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
社会人生活を意識して、新聞、本、ＴＶ等から様々な情報を入手し、特に社会情報に対して強い関心を持つ。
特にインターンシップ研修先の業界研究を行う。
事前学修、事後学修として週に2時間程度が望まれる。

評価方法
・インターンシッププログラム全体を通した取り組み姿勢（40%）
・受入れ機関の個人評価（10%）
・研修日程の内容及びプレゼンテーションの内容（50%）
などを総合して評価する。事前学習及び発表後にその都度口頭にてフィードバックする。

教科書	参考図書
特になし	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　国際学部国際学科 笹生　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室

01	インターンシップ説明会
02	インターンシップ受講申込み手続き（エントリーシート）
03	学内面接
04	外部講師などによるビジネスマナー研修
05	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修①
06	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修②
07	インターンシップ受入れ機関への事前挨拶訪問
08	インターンシップ受入れ機関にて実習①
09	インターンシップ受入れ機関にて実習②
10	インターンシップ受入れ機関にて実習③
11	インターンシップ受入れ機関にて実習④
12	インターンシップ受入れ機関にて実習⑤
13	インターンシップ受入れ機関にて実習⑥
14	インターンシップ学内事後研修（研修のまとめ）
15	インターンシップ体験発表
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK21K1202　インターンシップ（国内）B	担当者:笹生 友広	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　本科目では桜花学園大学ディプロマポリシーにある、「高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与すること」ができる能力を身につけることを目指す。
　原則として夏季・春季休み期間を利用して、一般企業、各種団体などにおける職場体験を通して、組織の仕組み、仕事の流れ及び労働への理解を深める。卒業後のキャリアプラン（就職活動を含む）の設定において、自分が将来希望する職種などについて実習を通して学ぶことは非常に有意義である。
　基本実習期間は2週間または60時間以上とする。

授業の到達目標
①社会において大切なコミュニケーション能力を実体験において修得する。（DP）
②企業、組織の役割、公権力を実体験において学修する。（DP）
③卒業後のキャリアプランを見据えた業界情報を修得する。（DP）
④インターンシップ後の発表会において成果を報告する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
「保育学科」
　◎他者と交流・協力し、学び合う力　○課題解決力
「国際教養こども学科」
　◎多文化共生社会に必要な異文化受容能力　○課題解決力と論理的思考力
「国際学科」
　◎地域・国際社会の実践的・文化的問題への理解力
　○国際社会の課題への批判的思考、論理的・創造的発信による主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
社会人生活を意識して、新聞、本、ＴＶ等から様々な情報を入手し、特に社会情報に対して強い関心を持つ。
特にインターンシップ研修先の業界研究を行う。
事前学修、事後学修として週に4時間程度の学修が望まれる。

評価方法
・インターンシッププログラム全体を通した取り組み姿勢（40%）
・受入れ機関の個人評価（10%）
・研修日程の内容及びプレゼンテーションの内容（50%）
などを総合して評価する。事前学習及び発表後にその都度フィードバックする。

教科書	参考図書
特になし	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　国際学部国際学科 笹生　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室

01	インターンシップ説明会
02	インターンシップ受講申込み手続き（エントリーシート）
03	学内面接
04	外部講師などによるビジネスマナー研修
05	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修①
06	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修②
07	インターンシップ受入れ機関への事前挨拶訪問
08	インターンシップ受入れ機関にて実習①
09	インターンシップ受入れ機関にて実習②
10	インターンシップ受入れ機関にて実習③
11	インターンシップ受入れ機関にて実習④
12	インターンシップ受入れ機関にて実習⑤
13	インターンシップ受入れ機関にて実習⑥
14	インターンシップ学内事後研修（研修のまとめ）
15	インターンシップ体験発表
16	なし

科目名:OK21K1301　総合英語Ⅲ	担当者:内田 政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
　この授業では、「総合英語I・II」に引き続き、英語の運用能力の４技能をバランスよく学習していきます。特に、Listening、Grammar、Readingに焦点を当て、より実践的に英語を使用することを見据えて授業を進めます。また、e-Learning教材を導入することにより、英語の自律学習スキルを身につける素地を養いつつ、学習⇒実践⇒確認テストのサイクルで内容をしっかりと定着させ、インタラクティブな学習法を利用することで社会で必要とされる実践的な英語を学びます。【AL】

授業の到達目標
　４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。インプットとアウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回のe-Learning課題に必ず取り組んでから次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%
フィードバックは、個人への提出物返却及び授業におけるクラス全体への講評等によって行う。

教科書	参考図書
Really English総合英語コース（Edulinx）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
e-Learning教材は各自で購入、ログイン作業などを行うため、PC作業には慣れておくこと。授業時はPCを毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Introduction & Placement Test
02	A typical day (Listening)
03	Describing a meal (Listening)
04	Food I live (Grammar)
05	Getting around (Reading)
06	Office job (Listening)
07	My new life (Grammar)
08	On the road (Reading)
09	Asking for tourist information (Listening)
10	Scheduling at a meeting (Grammar)
11	Good friends (Reading)
12	Free time activities (Listening)
13	Ways to spend your free time (Grammar)
14	Enjoying yourself (Reading)
15	Review for spring semester
16	None

2024年度シラバス

科目名:OK21K1301　総合英語Ⅲ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
The main aim of this course is for students to practice an refine their listening and reading skills in general and develop basic test-taking strategies for overall TOEIC L&R test. This course is also designed to improve students' overall TOEIC L&R test scores. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to 1. become familiar with the TOEIC L&R test and improve basic test-taking strategies. 2. develop listening and reading skills necessary for the TOEIC L&R test. 3. improve overall English proficiency and increase their confidence with English. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students will be required to bring an English/ Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Class participation 20%, Quizzes and homework 30% Midterm exam 20% Final exam 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Mastery Drills for the TOEIC® L&R TEST All in One [New Edition] (Kirihara Shoten)　Active Communication with Phrases (Nan-un do)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask question during class, and actively work on improving their communication skills. And also, all classwork and homework must be completed on time.

01	Placement test
02	Course introduction　Phrase Learning 11
03	Unit 1. 人物の動作と状態／表・用紙
04	Unit 2. 疑問詞を使った疑問文／広告　Phrase Learning 12
05	Unit 3. 日常場面での会話／品詞
06	Unit 4. アナウンス・ツアー／動詞　Phrase Learning 13
07	Unit 5. 物の状態と位置／チャット　Midterm exam
08	Unit 6. 基本構文と応答の決まり文句／手紙・Eメール　Phrase Learning 14
09	Unit 7. 電話での会話／代名詞・関係代名詞
10	Unit 8. ラジオ放送・宣伝／接続詞・前置詞　Phrase Learning 15
11	Unit 9. Yes/No疑問文／ダブルパッセージ
12	Unit 10. オフィスでの会話①／Part 5の復習　Phrase Learning 16
13	Unit 11. 留守番電話／トリプルパッセージ
14	Unit 12. オフィスでの会話②／Part 7の復習
15	Unit 13. Part 1とPart 2の復習／時制・代名詞・語い問題
16	Final exam

2024年度シラバス

科目名:OK22K1301　総合英語Ⅳ	担当者:内田 政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
　この授業では、「総合英語I・II」に引き続き、英語の運用能力の４技能をバランスよく学習していきます。特に、Listening、Grammar、Readingに焦点を当て、より実践的に英語を使用することを見据えて授業を進めます。また、e-Learning教材を導入することにより、英語の自律学習スキルを身につける素地を養いつつ、学習⇒実践⇒確認テストのサイクルで内容をしっかりと定着させ、インタラクティブな学習法を利用することで社会で必要とされる実践的な英語を学びます。【AL】

授業の到達目標
　４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。インプットとアウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回のe-Learning課題に必ず取り組んでから次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%
フィードバックは、個人への提出物返却及び授業におけるクラス全体への講評等によって行う。

教科書	参考図書
Really English総合英語コース（Edulinx）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
e-Learning教材は各自で購入、ログイン作業などを行うため、PC作業には慣れておくこと。授業時はPCを毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Introduction
02	The weekly shopping trip (Listening)
03	Where I work (Grammar)
04	Good feelings (Reading)
05	At the movie theater (Listening)
06	Everyday questions (Grammar)
07	Boarding a fright (Reading)
08	Using transportation (Listening)
09	A good place to live (Grammar)
10	Good food (Reading)
11	Buying a train ticket (Listening)
12	Studying abroad (Grammar)
13	Arranging meetings (Reading)
14	Hotel reservations (Listening)
15	Review for fall semester
16	None

2024年度シラバス

科目名:OK22K1301　総合英語Ⅳ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
The main aim of this course is for students to practice an refine their listening and reading skills in general and develop test-taking strategies for overall TOEIC L&R test. This course is also designed to further improve students' overall TOEIC L&R test scores. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to 1. further improve test-taking strategies. 2. develop listening and reading skills necessary for the TOEIC L&R test. 3. improve overall English proficiency and increase their confidence with English. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students will be required to bring an English/ Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Class participation 20%, Quizzes and homework 30% Midterm exam 20% Final exam 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Mastery Drills for the TOEIC® L&R TEST All in One Advanced (Kirihara Shoten)　Active Communication with Phrases (Nan-un do)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask question during class, and actively work on improving their communication skills. And also, all classwork and homework must be completed on time.

01	Course introduction　Phrase Learning 17
02	Unit 1. 人物の動作表現／品詞・代名詞
03	Unit 2. 疑問詞で始まる疑問文／態・分詞　Phrase Learning 18
04	Unit 3. 店・ホテルでの会話／読解の基礎を身につける
05	Unit 4. 留守番電話／詳細情報を特定する　Phrase Learning 19
06	Unit 5. 物に関する描写／話の展開を読み取る
07	Unit 6. Yes/No疑問文・選択疑問文／接続詞・前置詞　Phrase Learning 20
08	Unit 7. 日常生活における会話／内容把握に挑戦する
09	Unit 8. アナウンス・宣伝／語彙問題　Midterm exam
10	Unit 9. ステートメント・付加疑問文／時制・代名詞・語彙
11	Unit 10. オフィスでの会話①／マルチプルパッセージ (2つ)
12	Unit 11. トーク (会議・イベント) ／Part 5の復習
13	Unit 12. オフィスでの会話①／つなぎ語・文選択
14	Unit 13. ニュース・ラジオ放送／マルチプルパッセージ (3つ)
15	Unit 14. 図表問題と意図問題／Part 6とPart 7の復習
16	Final exam

2024年度シラバス

科目名:0K21K1302　中国語と文化Ⅲ	担当者:韓 丹	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。この授業は共通教育科目における「グローバル化に対応したコミュニケーションスキル関係」の「基礎科目」であり、「外国語の運用能力・表現能力」を育成し、「信念ある女性」としての基礎育成の一環としているものである。中国語と文化Ⅰ、Ⅱで身につけた発音に関する基礎知識を踏まえて、基礎的な語彙、文法を適切に運用し、簡単な日常会話能力を習得していくことを目的とする。発音の練習を重視しながら、耳に入ってくる中国語の意味を正確に理解し、自らの言葉として発信する能力を身につけていく。

授業の到達目標
基本発音を復習した後、ワンステップ上の中国語の文法を学ぶ。基礎的な語彙と初歩的な文法を繰り返し練習することによって、「聴く」「話す」を身につける。簡単な日常会話能力を身につけ、適切に使うことができる（DP）。

【DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習など。一週間に2時間以上の課外学習が必要。
映画、音楽、時事など中国文化に関することに興味を持つこと。

評価方法
平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%
口頭テスト　10%
筆記テスト50%
提出された課題について授業中にフィードバックをする。

教科書	参考図書
『入門ビジュアル中国』　朝日出版社	『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業終了後に質問を受け付ける。
初回授業の時にメールアドレスを周知する。

01	授業ガイダンスと一年次要点チェック
02	よく眠りました。結果補語と選択疑問文
03	学校から遠いですか？前置詞”离” と 副詞”挺”
04	中国の世界遺産
05	中国に行ったことがありますか？経験を表す“过” 助動詞“想”“要”“打算”
06	北京の観光スポット
07	彼は走るのがはやい。様態補語と方位詞
08	復習　会話練習
09	スマホで写真を撮る。前置詞”用”と二重目的語
10	休みになったら、旅行しよう。助詞”会”と”了”
11	友達と一緒に図書館に行く予定。助動詞”要”と前置詞”跟”
12	私はチケットを買ってきた。”把”構文
13	映画鑑賞：中国の美食と現代社会
14	復習　口頭テスト
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:OK22K1302　中国語と文化Ⅳ	担当者:韓 丹	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。この授業は共通教育科目における「グローバル化に対応したコミュニケーションスキル関係」の「基礎科目」であり、「外国語の運用能力・表現能力」を育成し、「信念ある女性」としての基礎育成の一環としているものである。中国語と文化Ⅰ、Ⅱで身につけた発音に関する基礎知識を踏まえて、基礎的な語彙、文法を適切に運用し、簡単な日常会話能力を習得していくことを目的とする。発音の練習を重視しながら、耳に入ってくる中国語の意味を正確に理解し、自らの言葉として発信する能力を身につけていく。

授業の到達目標
基本発音を復習した後、ワンステップ上の中国語の文法を学ぶ。基礎的な語彙と初歩的な文法を繰り返し練習することによって、「聴く」「話す」を身につける。簡単な日常会話能力を身につけ、適切に使うことができる（DP）。

【DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習など。
一週間に2時間以上の課外学習が必要。
映画、音楽、時事など中国文化に関することに興味を持つこと。

評価方法
平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%
口頭テスト　10%
筆記テスト　50%
提出された課題について、授業中にフィードバックをする。

教科書	参考図書
資料を配布する予定	『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社ほか

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業終了後に質問を受け付ける。
初回授業にてメールアドレスを周知する。

01	前期要点チェック、単語の聞き取り練習
02	中国の祝日と年中行事
03	休みになったら、旅行しよう。　助詞”会”と”了”
04	友達と一緒に図書館に行く予定。　助動詞”要”と前置詞”跟”
05	中国茶と喫茶文化
06	私はチケットを買ってきた。　”把”構文
07	音楽を聴きながら、宿題をする。　”一边～、一边～”
08	復習　会話練習
09	中国の伝統芸能と方言
10	いつ蘇州に行く？　常用疑問詞
11	父は私に車を運転させてくれない。　使役文
12	食べきれない。　可能補語と助動詞”能”
13	この本にひかれた。　受け身文
14	文化体験　映画鑑賞
15	まとめと確認テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK21K1303　韓国語と文化Ⅲ	担当者:都 恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、高い教養に資する知識・理解する力、課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能を身につけるための授業です。いろいろな文法項目や表現を学びながらテキストを中心に進めますが、別配布の資料を使って文型練習をしたり、ペアーワークで会話の練習をしながらスピーキングに重点を置きます。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めます。韓国の文学作品を1冊以上読みます。単元ごとに確認テストを行います。韓国の大学生とリモートで「おしゃべりカフェ」に参加します。 (AL)

授業の到達目標
動詞・形容詞の活用をしっかり覚え、対話形式の会話文に慣れる (DP)。
韓国文化についての知識が増え、異文化に対する理解を深める (DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：音源を聞いて音読の練習をしてください。必要時間：約2時間
事後学修：単語帳に単語をまとめ、覚えてください。必要時間：約2時間

評価方法
確認テスト (4回)　60%
韓国文学作品の感想文　10%
その他の課題　10%
「おしゃべりカフェ」の準備　10%
学修の振り返り　10%
○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。

教科書	参考図書
『ワンステップ韓国語』 (河正一) 朝日出版社 ⇒韓国語と文化Ⅱで使用したテキスト	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
単語力をつけましょう。アウトプットを意識しましょう。
連絡方法は授業中に提示します。
オフィスアワー：水曜日2限、金曜日2限

01	ガイダンス、韓国語と文化Ⅱの復習
02	第4課　予定を述べる１　基本文型の練習
03	第4課　予定を述べる１　応用練習
04	まとめと確認テスト (1)
05	第5課　予定を述べる２　基本文型の練習
06	第5課　予定を述べる２　応用練習
07	まとめと確認テスト (2)
08	日韓大学生オンラインおしゃべりカフェの準備
09	日韓大学生オンラインおしゃべりカフェに参加
10	第6課　過去の出来事を述べる　基本文型の練習
11	第6課　過去の出来事を述べる　応用練習
12	まとめと確認テスト (3)
13	第7課　尊敬語を使いこなす　基本文型の練習
14	第7課　尊敬語を使いこなす　応用練習
15	まとめと確認テスト (4)
16	なし

科目名:OK22K1303　韓国語と文化Ⅳ	担当者:都 恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、高い教養に資する知識・理解する力、課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能を身につけるための授業です。いろいろな文法項目や表現を学びながらテキストを中心に進めますが、別配布の資料を使って文型練習をしたり、ペアーワークで会話の練習をしながらコミュニケーション能力に重点を置きます。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めます。韓国の文学作品を1冊以上読みます。単元ごとに確認テストを行います。韓国の大学生とリモートで「おしゃべりカフェ」に参加します。（AL）

授業の到達目標
文型や表現を使い分けながら、いろいろな場面でのやりとりができる（DP）。
韓国文化についての知識が増え、異文化に対する理解を深める（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：音源を聞いて音読の練習をしてください。必要時間：約2時間
事後学修：単語帳に単語をまとめ、覚えてください。必要時間：約２時間

評価方法
確認テスト（4回）60%
韓国文学作品感想文　10%
その他の課題　10%
おしゃべりカフェ　10%
学修の振り返り　10%

○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。

教科書	参考図書
『ワンステップ韓国語』（河正一）朝日出版社 ⇒　韓国語と文化Ⅲで使用したテキストです。	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
単語力をつけましょう。アウトプットを意識しましょう。
連絡方法は授業中に提示します。
オフィスアワー：水曜日2限、金曜日2限

01	ガイダンス、韓国語と文化Ⅲの復習
02	第8課　尊敬語の過去形を学ぶ　基本文型の練習
03	第8課　尊敬語の過去形を学ぶ　応用練習
04	まとめと確認テスト（1）
05	第9課　理由・原因を述べる　基本文型の練習
06	第9課　理由・原因を述べる　応用練習
07	まとめと確認テスト（2）
08	日韓大学生オンラインおしゃべりカフェの準備
09	日韓大学生オンラインおしゃべりカフェに参加
10	第10課　家族を紹介する　基本文型の練習
11	第10課　家族を紹介する　応用練習
12	まとめと確認テスト（3）
13	第11課　友達を慰める　基本文型の練習
14	第11課　友達を慰める　応用練習
15	まとめと確認テスト（4）
16	なし

科目名:OK21K1301　日本語表現Ⅲ	担当者:浅岡悦子、鬼頭 祐太	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　「日本語表現」科目は、共通教育科目のうち基礎科目に属する。この科目は、大学生に必要な日本語運用能力の習得を目的とする。「日本語表現Ⅲ」では、実践を通して学術的な文章を書く力を養う。さらに、毎時おこなう課題を通して、ことばの知識を増やし、授業では、発表したテーマについて意見文を作成する。また、漢字テストを実施することで漢字の知識を増やす。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎グローバルな視点から地域・国際社会を理解する能力
○現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力

・文章表現上の基礎知識を知り、学術的な文章を書くことができる。（DP）
・資料の概要を正確に読みとることができる。
・ことばに関する知識を増やし、日常生活で活かすことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
漢字の学習に取り組むこと。可能な限り、新聞に目を通すこと。なお、授業内で課した課題について授業終了後までまたは課外での提出を求めることがある。

評価方法
・授業に対する取り組み・態度・課題の提出　　55%
　内、授業内外の課題や発表など35%を含む。
・漢字学習の取り組み・態度・小テストの成績　　30%
・学期末のまとめテスト　　15%
以上を基本とし、総合的に評価する。授業内の課題、漢字小テストについては授業内で適宜コメントすることがある。確認テストについては文章の添削や学生からの質問に応じる。

教科書	参考図書
小出祥子　他（2023）『実践　日本語表現―伝わる日本語を身につける―』学術図書出版 日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 2級』	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。
・授業の進度や学生の理解度などに応じて授業計画の変更がありうる。

去年度と異なる教科書を用いる。よく確認して購入してほしい。

01	学科紹介　自己紹介
02	対話を深める
03	テーマ発表をする　テーマを決める
04	調査の方法
05	図書館で調べる
06	発表資料を作成する
07	発表会1
08	発表会2（続）
09	発表会3（続々、1,2を受けて）
10	レポートの種類と書き方
11	レポートの構成
12	レポート作成
13	文献引用の方法
14	校正
15	レポートを完成させる
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK22K1301　日本語表現Ⅳ	担当者:鬼頭 祐太、浅岡 悦子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　「日本語表現」科目は、共通教育科目のうち基礎科目に属する。この科目は、大学生に必要な日本語運用能力の習得を目的とする。「日本語表現Ⅳ」では、実践を通して考える力、読む力、書く力を総合的に高める。授業では、新聞記事等の複数の資料を用いて多角的にテーマについて考え、自分の見解を発表する。また、就職活動に備えて、日本語表現の力をつける。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎グローバルな視点から地域・国際社会を理解する能力
○現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力

・複数の資料を読み、テーマについて多角的に考えることができる。
・場面にあった適切な表現で、伝えるべきことがらを相手に伝えることができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
漢字の学習に取り組むこと。可能な限り、新聞に目を通すこと。なお、授業内で課した課題について授業終了後までまたは課外での提出を求めることがある。

評価方法
・授業に対する取り組み・態度・課題の提出　　55%
　内、授業内外の課題や発表など35%を含む。
・漢字学習の取り組み・態度・小テストの成績　　30%
・学期末のまとめテスト　　15%
以上を基本とし、総合的に評価する。授業内の課題、漢字小テストについては授業内で適宜コメントすることがある。確認テストについては文章の添削や学生からの質問に応じる。

教科書	参考図書
小出祥子　他（2023）『実践　日本語表現―伝わる日本語を身につける―』学術図書出版 日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 2級』	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。
・授業の進度や学生の理解度などに応じて授業計画の変更がありうる。

01	グループディスカッション１　コラム
02	グループディスカッション２　国際問題
03	グループディスカッション３　教育問題
04	グループディスカッション４　社会問題
05	グループディスカッション５　時事問題全般
06	役割分担と効果的な討論の進め方
07	自分の意見をまとめて発表する
08	自分史を書く
09	自己PRをする
10	大学生活を振り返りアピールする
11	自分の成長を自覚する
12	将来に備えて　1対1の対話
13	将来に備えて　集団での対話
14	将来に備えて　就職作文 将来に備えて　800字の文章を作成する
15	将来に備えて　エントリーシートにまとめる
16	なし

科目名:OK22K1401　日本国憲法	担当者:早野 暁	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　法の支配（法による統治）、それは自由社会を理想とする国家にとっての基本原理である。多数派による少数派の抑圧を防止する方便としての憲法の存在、裁判所の違憲立法審査権の目的を理解するための講義である。自由社会のための法技術の理解、あるいは、民主主義の法的な発想が東洋文化圏でどのように発展してきたかを体得することを本講義は目的としている。

授業の到達目標
　国民個人の「自由」と国の統治権の行使の結果実現される「正義」というものが相反する作用の関係にあることを理解できる。【DP】基本権あるいは人権思想が発達してきた歴史上の経緯を知り、三権分立の目的が理解できること。権利や自由には内在的な制約があり、国民はこれを濫用せずに公共の福祉に反しない形で行使しなければならないことの意味を理解できる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業計画に示した各回の項目を事前に予習し、理解の困難な箇所を把握しておくこと(1時間）。授業の後には争点や論点が何か、つまり、何が問題となり何が解決策の基準となるかを整理できるように復習すること（1時間）。統治制度や法制度の基本理念を最終的には全体構造として捉えられるように、基本権各項目を勉強すること（30分）。各回講義で扱った判例（裁判所の判断）の内容を理解するにとどまらず、判例の立場の当否を充分な理由を示して検討できるようになることが望ましい。

評価方法
学期末定期試験（論述筆記試験:100%）の得点で評価する。期末試験の解答のポイント等を履修者に告示してフィードバックをおこなう。

教科書	参考図書
なし	森口佳樹ほか著『ワンステップ憲法』嵯峨野書院

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
できるだけ分かりやい言葉で説明しますので、興味のある方は法学の分野に足を踏み入れてみてください。学科に関する質問であればムードルのメッセージにて質問を受けつけます。

01	憲法を学ぶ前に。なぜ法により国（社会）を統治するのか。
02	紛争解決の基準。法源の種類。
03	基本権と公共の福祉。法の下の平等。
04	思想・良心の自由。表現の自由。
05	財産権。営業の自由。職業選択の自由。
06	信教の自由。
07	勤労者の権利。労働基本権。
08	裁判を受ける権利。裁判員制度。
09	生存権。健康で文化的な最低限度の生活とは何か。
10	刑事司法制度。人身の自由。
11	戦争放棄と自衛権。
12	民主主義の長所と短所。議院内閣制。
13	憲法と条約。
14	保育事業と憲法。
15	全講義の総復習。
16	学期末試験

科目名:OK21K1401　海外研修Ａ	担当者:井川 恵理、布 和、金 三淑	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解し、論理的な発信ができる能力」に関連している。[DP] 海外研修Aは、２週間以上の現地研修を原則とし、英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。
A. Coure Description
担当者と各自相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。２～３週間、毎週１５時間以上（語学研修充実のためには週20時間以上が望ましい）の語学研修を含む内容を原則とする（４週間以上は「海外研修B」として登録するので注意すること）。
B. General Approach
説明会の後、研修を希望する学生は、各担当者（中国研修は布和、韓国研修は都、それ以外は井川）と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始める。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましい。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となる。
C. Relationship with Other Courses 中国語・韓国語・スペイン語関係の諸科目、International Relations, Asian Studies, American Studies, British Studies　等

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。
１．語学能力の向上 【DP】
２．滞在地における社会、生活、文化理解　【DP】
３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ　【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。
１．研修実施地については各自が選択可能。大学が参加者を募る研修、信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、独自に渡航先の教育機関等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も、どの言語をどのような環境で学ぶか、また安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞
２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。
３．研修時間数　週１５時間以上　語学研修

評価方法
日誌40%、ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語1200字程度または英語1000語程度）30%、学内プレゼンテーション30% 各提出物へのコメントシート添付にてフィードバックを行う。

教科書	参考図書 外務省海外安全関連HP、大学の留学関連対策資料

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
説明会への出席、担当者との打ち合せを欠かさず行い、事前の準備、渡航先の安全確認を怠らないこと。

01
＜研修前の準備＞
各自の目標に応じて、担当者とともに研修先を検討し、ポートフォリオ（計画書等）の記録を始める。
研修先国、機関等決定ののち、渡航準備に必要な手続きや書類を確認し、準備し、必要に応じて留学業者との打ち合わせを実施する。担当者・大学からの安全確認指導を受ける。たびレジ等海外での安全対策として必要な事項を確認し、各自準備する。
＜研修中＞
研修期間には学修を充実させるとともに、日誌での記録、報告書を準備し、帰国後の学内プレゼンテーションに備える。
＜研修修了後＞
次の学期に科目登録を

科目名:OK21K1402　海外研修Ｂ	担当者:井川 恵理、布 和、金 三淑	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解し、論理的な発信ができる能力」に関連している。 海外研修Aは、英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。
A. Coure Description
担当者と各自相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。４週間以上、毎週１５時間以上（語学研修充実のためには週20時間以上が望ましい）の語学研修を含む内容を原則とする（２～３週間を希望する場合は「海外研修A」として登録するので注意すること）。
B. General Approach
説明会の後、研修を希望する学生は、各担当者（中国研修は布和、韓国研修は都、それ以外は井川）と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始める。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましい。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となる。
C. Relationship with Other Courses 中国語・韓国語・スペイン語関係の諸科目、International Relations, Asian Studies, Oceanian Studies,American Studies, British Studies　等

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。
１．語学能力の向上 【DP】
２．滞在地における社会、生活、文化理解　【DP】
３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ　【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎価値観・態度・志向性
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。
１．研修実施地については各自が選択可能。大学が参加者を募る研修、信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、独自に渡航先の教育機関等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も、どの言語をどのような環境で学ぶか、また安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞
２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。
３．研修時間数　週１５時間以上　語学研修

評価方法
日誌40%、ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語1200時程度または英語1000語程度）30%、学内プレゼンテーション30% 各提出物へのコメントシート添付によりフィードバックを行う。

教科書	参考図書 外務省海外安全関連HP、大学の留学関連対策資料

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
説明会への出席、担当者との打ち合せを欠かさず行い、事前の準備、渡航先の安全確認を怠らないこと。

01	＜研修前の準備＞ 各自の目標に応じて、担当者とともに研修先を検討し、ポートフォリオ（計画書等）の記録を始める。 研修先国、機関等決定ののち、渡航準備に必要な手続きや書類を確認し、準備し、必要に応じて留学業者との打ち合わせを実施する。担当者・大学からの安全確認指導を受ける。たびレジ等海外での安全対策として必要な事項を確認し、各自準備する。 ＜研修中＞ 研修期間には学修を充実させるとともに、日誌での記録、報告書を準備し、帰国後の学内プレゼンテーションに備える。 ＜研修修了後＞ 次の学期に科目登録を

2024年度シラバス

科目名:OK21K1203　海外英語資格実習	担当者:石渡 雅之	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を主として教育分野で発揮することを大きな目標として運用されるものである。例えば、TESOL-Cなどの資格を海外で取得する場合に、現地実習の時間数や、授業時間数などが単位取得のための条件を満たしていれば、本授業への単位申請が可能になる。

授業の到達目標
（資格ー教育分野の例）学校での語学指導について、高い教養と豊かな人間性を伴う理論や教授方法を効果的に組み合わせて、授業実践をすることができる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教育分野の資格取得の場合は、前期の講義科目「英語学習と学習指導要領」が事前学修の場として活用可能である。その他の分野の資格を海外で取得する場合は事前に相談にくること。なお、授業外に行う学修時間として４時間以上を必須とし、単位申請にあたり、それを証明する必要がある。

評価方法
オリエンテーションへの参加態度（３０％）、現地実習の参加態度（２０％）、実習評価（４０％）CRP（１０％）資格が出された際の「現地の評価書」と自身のCRPを比較し、項目別にフィードバックを個別指導の形で行う。

教科書	参考図書
使用しない。	適宜、目的に応じたものを授業内で紹介していく。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡方法は授業で指示する。

01	８月下旬、または２月下旬：キャンパスにおける実習直前オリエンテーション（３日間実施予定） ９月上旬、または３月上旬：現地実習（１４日間実施予定） ※本授業は講義・演習・実習が組み合わさっている授業である。講義９時間（国内・現地問わない）、演習７時間（現地）、実習６．５時間（現地）の合計２２．５時間をもって２単位を履修することが可能になるプログラムであり、それらを受けたことが証明できる書類の提出が必要となる。また、帰国後は自身の学びの内容を発表することが義務付けられる。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK21K1101　コンピュータⅢ	担当者:加藤 和幸	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
IT化が日々進歩する現代において「情報システム」を用いた問題解決は欠かすことができない。通常、情報システムは専門家によって開発されている。この授業ではその際に必要なプログラミングの基礎知識や活用方法などの説明ができる知識・技術を基礎からはじめて応用の領域まで学びます。EXCELの実践的な利用方法の復習、VBAの基本と応用、さらにEXCELを用いて具体的なプログラム作品の作成をします。

授業の到達目標
EXCELで関数、VBA（Visual Basic for Applications）の基礎を理解しEXCEL上での基本的なプログラミングができるようになる。（DP)
基礎的なコンピュータの原理やネットワークの仕組みを理解する。VBAを用いて具体的なプログラムが作成できるようになる。（DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日々の行動をIT化できないか考えてみる習慣、インターネットなどを活用して、日々進化する技術の情報収集を行う習慣を行ってください。

評価方法
授業内で作成した、提出ファイルの完成度70%、学習意欲態度30%
提出されたファイルは教師が随時確認し評価を伝え、必要に応じて再提出をさせる。

教科書	参考図書
随時プリント配布	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回充電済みパソコンを持参すること。
授業内容についての疑問点は、その都度、授業内に質問し解決すること。
授業外での質問や自学自習の報告等は、メールまたは総合情報センターに連絡すること。

01	ガイダンス、実践的なEXCELの体験（関数・VBA）
02	EXCEL１　基本操作の復習と関数の利用
03	EXCEL２　やや複雑な関数の利用とグラフの作成
04	EXCEL３　ＶＢＡ基本操作方法の実習　エディタの使い方　デバッグの方法
05	EXCEL４　簡単なプログラムをつくってみよう １　変数、データ型、代入
06	EXCEL５　簡単なプログラムをつくってみよう ２　ループ処理FOR文、WHILE文
07	EXCEL６　簡単なプログラムをつくってみよう ３　ランダム関数の利用
08	ネットワーク　ハードウエアの仕組み　サーバーとクライアント構成
09	ネットワーク　ソフトウエアの仕組み（サーバー編）WEBebサーバの役割と機能　VPNの仕組み
10	ネットワーク　ソフトウエアの仕組み（クライアント編）ブラウザーとメーラー
11	VBAの利用１　入力と出力の設計
12	VBAの利用２　アルゴリズムの作成と検討
13	VBAの利用３　プログラミング作品の作成
14	VBAの利用４　プログラミング作品の完成
15	総合復習とまとめ
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OK22K1101　コンピュータⅣ	担当者:加藤 和幸	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
実社会におけるIT化が日々進歩する現代において、「情報システム」は欠かすことができない。通常、情報システムは、エンジニアによって開発されている。「コンピュータⅢ」で習得した知識・技術を発展させ、EXCELやVBAを用いた「応用領域」を中心に学習します。またネットワークの基本になる知識にも触れ、理解を深める。

授業の到達目標
EXCELを用いて数値解析法、データベースでの利用法、統計処理の基本について理解できるようになる。またVBA（Visual Basic for Applications）を利用して社会事象をモデル化しそのシミュレーションの考察ができるようになる（DP）
システムダイナミクスの理論も理解できるようになる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
興味を持つことが大切になります。生活の中で、工業製品を見てどこの寸法が必要かを考えて見るなど、物に対して意識を持つようにしてください。

評価方法
授業内で作成した、提出ファイルの完成度70%、学習意欲態度30%
提出されたファイルは教師が随時確認し評価を伝え、必要に応じて再提出をさせる。

教科書	参考図書
随時プリント配布	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
毎回充電済みパソコンを持参すること。
授業内容についての疑問点は、その都度、授業内に質問し解決すること。
授業外での質問や自学自習の報告等は、メールまたは総合情報センターに連絡すること。

01	EXCEL１　EXCEL全体の復習
02	EXCEL２　EXCEL を用いた数値解析法
03	EXCEL3　データベースでの利用法
04	EXCEL4　社会事象のモデル化
05	EXCEL5　シミュレーションの手法
06	ネットワーク１　bitとBYTEの違い（2進数の計算とbps）
07	ネットワーク２　ウィルス対策、不正アクセス、ファイアウォール
08	ネットワーク３　デジタル表現とマルチメディアの処理
09	VBA1　プログラミングの復習
10	VBA２　システムダイナミクスの基本
11	VBA３　システムダイナミクスの応用
12	EXCEL応用１　統計的処理での利用
13	EXCEL応用２　データの分析とその活用
14	EXCEL応用３　社会事象のデータ収集とその分析
15	分析結果のレポート作成とまとめ
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OK21K1301　総合英語Ⅲ	担当者:奥田 由美子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限: Ⅰ・Ⅱを履修していなければ履修できない		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
　この授業では、「総合英語I・II」に引き続き、英語の運用能力の４技能をバランスよく学習していきます。特に、Listening、Grammar、Readingに焦点を当て、より実践的に英語を使用することを見据えて授業を進めます。また、e-Learning教材を導入することにより、英語の自律学習スキルを身につける素地を養いつつ、学習⇒実践⇒確認テストのサイクルで内容をしっかりと定着させ、インタラクティブな学習法を利用することで社会で必要とされる実践的な英語を学びます。【AL】

授業の到達目標
　４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。インプットとアウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回のe-Learning課題に必ず取り組んでから次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%
フィードバックは、個人への提出物返却及び授業におけるクラス全体への講評等によって行う。

教科書	参考図書
Really English総合英語コース（Edulinx）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
e-Learning教材は各自で購入、ログイン作業などを行うため、PC作業には慣れておくこと。授業時はPCを毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Introduction & Placement Test
02	A typical day (Listening)
03	Describing a meal (Listening)
04	Food I live (Grammar)
05	Getting around (Reading)
06	Office job (Listening)
07	My new life (Grammar)
08	On the road (Reading)
09	Asking for tourist information (Listening)
10	Scheduling at a meeting (Grammar)
11	Good friends (Reading)
12	Free time activities (Listening)
13	Ways to spend your free time (Grammar)
14	Enjoying yourself (Reading)
15	Review for spring semester
16	None

2024年度シラバス

科目名:OK21K1301　総合英語Ⅲ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限: Ⅰ・Ⅱを履修していなければ履修できない		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
この授業では、「総合英語I・II」に引き続き、英語の運用能力の４技能をバランスよく学習していきます。特に、Listening、Grammar、Readingに焦点を当て、より実践的に英語を使用することを見据えて授業を進めます。また、e-Learning教材を導入することにより、英語の自律学習スキルを身につける素地を養いつつ、学習⇒実践⇒確認テストのサイクルで内容をしっかりと定着させ、インタラクティブな学習法を利用することで社会で必要とされる実践的な英語を学びます。【AL】

授業の到達目標
４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。インプットとアウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回のe-Learning課題に必ず取り組んでから次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%
フィードバックは、個人への提出物返却及び授業におけるクラス全体への講評等によって行う。

教科書	参考図書
Really English総合英語コース（Edulinx）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
e-Learning教材は各自で購入、ログイン作業などを行うため、PC作業には慣れておくこと。授業時はPCを毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Introduction & Placement Test
02	A typical day (Listening)
03	Describing a meal (Listening)
04	Food I live (Grammar)
05	Getting around (Reading)
06	Office job (Listening)
07	My new life (Grammar)
08	On the road (Reading)
09	Asking for tourist information (Listening)
10	Scheduling at a meeting (Grammar)
11	Good friends (Reading)
12	Free time activities (Listening)
13	Ways to spend your free time (Grammar)
14	Enjoying yourself (Reading)
15	Review for spring semester
16	None

2024年度シラバス

科目名:OK22K1301　総合英語Ⅳ	担当者:奥田 由美子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: Ⅰ・Ⅱ・IIIを履修していなければ履修できない		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
この授業では、「総合英語III」に引き続き、英語の運用能力の４技能をバランスよく学習していきます。特に、Listening、Grammar、Readingに焦点を当て、より実践的に英語を使用することを見据えて授業を進めます。また、e-Learning教材を導入することにより、英語の自律学習スキルを身につける素地を養いつつ、学習⇒実践⇒確認テストのサイクルで内容をしっかりと定着させ、インタラクティブな学習法を利用することで社会で必要とされる実践的な英語を学びます。【AL】

授業の到達目標
４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。インプットとアウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回のe-Learning課題に必ず取り組んでから次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%
フィードバックは、個人への提出物返却及び授業におけるクラス全体への講評等によって行う。

教科書	参考図書
Really English総合英語コース（Edulinx）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
e-Learning教材は各自で購入、ログイン作業などを行うため、PC作業には慣れておくこと。授業時はPCを毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Introduction
02	The weekly shopping trip (Listening)
03	Where I work (Grammar)
04	Good feelings (Reading)
05	At the movie theater (Listening)
06	Everyday questions (Grammar)
07	Boarding a fright (Reading)
08	Using transportation (Listening)
09	A good place to live (Grammar)
10	Good food (Reading)
11	Buying a train ticket (Listening)
12	Studying abroad (Grammar)
13	Arranging meetings (Reading)
14	Hotel reservations (Listening)
15	Review for fall semester
16	None

科目名:OK22K1301　総合英語Ⅳ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: Ⅰ・Ⅱ・IIIを履修していなければ履修できない。		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
この授業では、「総合英語I・II」に引き続き、英語の運用能力の４技能をバランスよく学習していきます。特に、Listening、Grammar、Readingに焦点を当て、より実践的に英語を使用することを見据えて授業を進めます。また、e-Learning教材を導入することにより、英語の自律学習スキルを身につける素地を養いつつ、学習⇒実践⇒確認テストのサイクルで内容をしっかりと定着させ、インタラクティブな学習法を利用することで社会で必要とされる実践的な英語を学びます。【AL】

授業の到達目標
４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。インプットとアウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回のe-Learning課題に必ず取り組んでから次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%
フィードバックは、個人への提出物返却及び授業におけるクラス全体への講評等によって行う。

教科書	参考図書
Really English総合英語コース（Edulinx）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
e-Learning教材は各自で購入、ログイン作業などを行うため、PC作業には慣れておくこと。授業時はPCを毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Introduction
02	The weekly shopping trip (Listening)
03	Where I work (Grammar)
04	Good feelings (Reading)
05	At the movie theater (Listening)
06	Everyday questions (Grammar)
07	Boarding a fright (Reading)
08	Using transportation (Listening)
09	A good place to live (Grammar)
10	Good food (Reading)
11	Buying a train ticket (Listening)
12	Studying abroad (Grammar)
13	Arranging meetings (Reading)
14	Hotel reservations (Listening)
15	Review for fall semester
16	None

科目名:OK11L0001　ライフコース論	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は「自分を知る」科目群の一つである。授業では、現代の日本および世界の子ども、女性、環境の状況と保育についての現状を把握し、一見男女平等社会に見える現代社会で女性はどういう問題をかかえているのか。また、それらの問題が生じる社会・歴史的な背景を理解し、その問題解決の視点を保育に生かす方法について考察します。

授業の到達目標
　現代女性の結婚・出産・労働の現状を学び、女性のライフコースについて考察することで、保育・子育て支援サービスを利用する女性が置かれている社会的立場やその現状が説明できるようになる（DP◎）。女性としての主体的な生き方とは何かを理解し、具体的将来像を描けるようになる（DP○）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　単元ごとに配布するワークシートの作成を事後学修とします。学修にあたって、教科書の講読を準備学修として指示します。具体的には、各学生がワークシートに記述した内容をメールで期限内に提出します。授業期間中に３回、理解度評価（学んだ内容のふりかえりレポート作成）を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価90%、毎授業後に提出するミニコメントシート（毎授業後のまとめ）10%にて行います。理解度評価の評点、毎授業後のまとめは提出後、評点を付けてメールにて返却します。

教科書	参考図書
嶋守さやか『虐待被害者という勿れ　虐待サバイバーという生き方』新評論	適宜、指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書として使用する資料を積極的に通読すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週火・水・木曜日のお昼休みとします。

01	オリエンテーション：講義概要の説明
02	仕事と結婚（１）映像資料から考える
03	仕事と結婚（２）グループディスカッション
04	出産・子育て（１）教科書の事例（身体障がい）から考える
05	出産・子育て（２）映像資料から考える（精神障がい）
06	第１回　理解度評価および解説
07	自己実現（１）教科書の事例検討（留学）
08	自己実現（２）教科書の事例検討（発達障がい）
09	自己実現（３）映像資料から考える
10	第２回　理解度評価および解説
11	性別・性差・性役割（１）――　ジェンダー理解
12	性別・性差・性役割（２）――　性と暴力
13	映像資料にみるライフコース（１）ソーシャルアクション
14	映像資料にみるライフコース（２）グループディスカッション
15	第３回　理解度評価および解説
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11L0002　ジェンダー論	担当者:中村 奈津子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は「自分を知る」科目群に位置づいています。授業では、ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差、性別）を切り口に、自己理解と他者理解を深めます。さらに、ジェンダーに関わる身近な社会課題を自分事として捉え、それらとどう向き合うことができるかについて、考察を深めます。資料(映像資料含む）を用いた講義を中心とし、ディスカッションやグループワークなど参加型の授業も取り入れますので、積極的な参加を歓迎します。【ＡＬ】

授業の到達目標
①ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差、性別）について理解し、ジェンダーの視点をもって人と社会を見ることができるようになります。
②ジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティについて学び、自己理解・他者理解を深めます（DP）。
③現代社会の抱えるさまざまな問題（家族、労働、ケア、暴力、格差など）に対して、ジェンダーの視点をもって考える力を身につけます（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：事前に配布する資料に目をとおし、概要を捉えておく。資料中の分からない用語について、自分なりに図書館やインターネットなどを活用して調べておくこと。
事後学修：教員が推薦する関連資料等を読んで、自分なりに関心を広げ、理解を深めること。
※ジェンダーにかかわる問題は、日ごろ「当たり前」と思っている常識や慣習の中に深く入りこんでいるので、自分の問題として気づき、考えることが大切です。性別や性について、身の回りで「当たり前」と思ってきたこと、思われていることに注目し、つねに「どうして？」と考える姿勢を大切にしてください。

評価方法
期末レポート（6割）、および授業ごとに提出するコメントシートの内容（4割）で評価します。いずれも授業内容の理解度と、当事者性をもった考察を重視します。毎回のコメントシートに対しては、次回の授業にてフィードバックを行います。

教科書	参考図書
指定なし。講義内容に応じて配布する資料がテキストとなります。	山下泰子・矢澤澄子監修『男女平等はどこまで進んだか一女性差別撤廃条約から考える』2018,岩波ジュニア新書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・各回に使用した資料は、Moodleにアップします。
・教員の連絡先は授業で開示します。

01	オリエンテーション：ジェンダーを学ぶ意義について
02	ジェンダーとは何か：社会のなかで、ジェンダーはどのように形成されているか
03	ジェンダー平等をめぐる歴史（１）：ジェンダー平等／男女共同参画社会をめざす、国内の動き
04	ジェンダー平等をめぐる歴史（２）：フェミニズム運動と女性学
05	多様な性（１）：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアリティ
06	多様な性（２）：映像作品をとおして考える
07	家族とジェンダー（１）：パートナーシップ・結婚・家族の変化
08	家族とジェンダー（２）：近年の「家族」をめぐる社会の動き
09	労働とジェンダー（１）：労働に関する法制度と、現代社会の労働問題
10	労働とジェンダー（２）：労働について考えるワークショップ
11	ハラスメント：職場や学校における、ジェンダーに由来するさまざまなハラスメント
12	暴力とジェンダー：親密な関係において起こりうる暴力（DV、デートDV）
13	コミュニケーション：アサーティブネス（積極的自己表現）
14	メディアとジェンダー：メディアにおけるジェンダーと、アンコンシャスバイアス
15	防災・災害復興とジェンダー：ジェンダーの視点をもった防災・災害復興
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11L0003　自分と家族	担当者:金子 晃之	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　自分と家族の関わり方の基本的論点を学び（桜花学DP1）、自分と家族について乳幼児から青年期までの発達という点から機能的に捉えて考えていく（桜花学DP3）。（授業方法は、可能であれば毎回、４～６人で１グループとなり、テキストを読みながら提示された課題を皆で考えて取り組んでいく。無理なようであれば、通常の一斉授業の形態で行う ）

授業の到達目標
　アタッチメント、母性・父性の役割、自立というものについて理解する（桜花学DP1）。そして親として次世代とかかわる際、何を成長の軸に据えなければならないのかを展望する思考力を身に付ける（桜花学DP3）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎回指示するが、基本的に、次回の資料を開示するので、与えられた課題について学習しておくこと（事前学修30分）。授業後は、書き込んだ資料を読み直し、ポイントを振り返りながら、授業ノートを提出すること(事後学修90分)。

評価方法
　毎回提出する授業ノートを合計して100点満点で評価する。授業ノートのフィードバックについては授業内で行う。

教科書	参考図書
Moodleに資料を添付する。	授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参して下さい。
　オフィスアワー　木曜日　昼休み。　　メールアドレス　t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	家族における母性と父性
02	日本社会での学校教育・社会化について考える①西洋型
03	日本社会での学校教育・社会化について考える②日本型
04	物語を失った若者たち
05	子どもを取り巻く社会的環境
06	現代の母子関係の問題
07	分離個体化
08	葛藤モデルと欠損モデル
09	母子関係の距離感
10	アタッチメント
11	アタッチメント研究
12	自分化と物語化
13	社会図式の構造
14	社会図式の形成
15	家庭教育のポイントをまとめる
16	なし

科目名:OK11L0101　芸術の世界	担当者:基村 昌代、田端 智美、石山 英明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭（美術）の経験を生かし、高等学校との学びの継続を行う。また芸術の教養を身につけるよう、美術鑑賞・音楽鑑賞・ICT利用等も取り入れながら、体験的に学ぶことができるようにする。【ＡＬ】

本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験する。幅広い知識、高い教養、豊かな人間性をそなえるべく、深い真理の探究ことを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。

授業の到達目標
①芸術とは何かを自分なりに理解できるようになること。【DP】
②芸術を実際に体感・鑑賞し、芸術に対する理解を深める。【DP】
③芸術を鑑賞する力や方法について考察し、身につける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
美術館・音楽会等に参加して芸術鑑賞を自らすすんで行うこと。

評価方法
レポート評価(50%)、毎回の授業の終わりのリフレクション等（省察・振り返り：ミニッツペーパー等を記述）への対応（30%）、授業への参加態度(20%)を対象として総合評価を行います。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
適宜プリントを配布します。	授業内で適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「芸術」は幅の広い概念です。普段から「芸術」に興味を持って、自らの幅を広げましょう。連絡はtabata@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス・オリエンテーション　（基村・田端・石山）
02	総合芸術について　（基村）
03	オペラ「カルメン」からみる女性像　（基村）
04	ミュージカル「サウンドオブミュージック」が伝える様々な愛（前半）　（基村）
05	ミュージカル「サウンドオブミュージカル」が伝える様々な愛（後半・まとめ）（基村）
06	モナリザはだれ？　レオナルド・ダビンチを中心に　（田端）
07	ピカソは本当に上手なの？　ピカソを中心に　（田端）
08	絵と会話してみよう！子どもの美術鑑賞を中心に　（田端）
09	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう①（バロック・古典派①）　（石山）
10	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう②（古典派②ロマン派①）　（石山）
11	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう③（ロマン派②・近現代）　（石山）
12	音楽会・又は音楽を楽しむ人々と音楽にこだわる芸術家　（石山）
13	美術館に行ってみよう　（美術館での鑑賞について）　（田端）
14	美術館に行ってみよう　（絵と会話してみよう実践）　（田端）
15	まとめ・レポート提出　（基村・田端・石山）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11L0102　文学の世界	担当者:太田 昌孝	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義は桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本講義では､前述の内容を踏まえ、主に宮沢賢治の作品分析及びその考え方、視点、生き様などを学ぶことにより、言語芸術の持つ特性について学修し、人間性を涵養する。

授業の到達目標
①　文学の基礎知識を習得する。②　小説や詩という文芸を学ぶことにより、言語感覚を錬磨し、作品鑑賞の力を習得する。(DP)
②　科学者・宗教者・教育者としての側面を持つ宮沢賢治の作品を学ぶことにより、幅広い教養と知識を獲得する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
①　言語表現一般に興味関心を抱き、努めてその鑑賞及び読解を試みる。②　実際に創作する機会を持つように努める。

評価方法
　講義に取り組む姿勢、(10) ミニレポート・創作（不定期/20）、定期試験（レポート/70）によって評価する。・ミニレポート・創作はA.B.Cの評価を付けて返却し、定期試験（レポート）についてもコメントを付して返却する。

教科書
『宮沢賢治の地平を行く』（仮題）太田昌孝・クロスカルチャー出版・2024年４月
『』

参考図書
『宮沢賢治の文学と法華経』・分銅淳作・水書房

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないように。連絡方法については講義で指示する。

01	講義概説（講義の目標とその概説）
02	宮沢賢治入門1（宮沢賢治の生涯）
03	宮沢賢治入門2（宮沢賢治と岩手）
04	作品鑑賞1（宮沢賢治の詩1）「雨ニモ負ケズ」
05	作品鑑賞2（宮沢賢治の詩2）「稲作挿話」
06	作品鑑賞3（宮沢賢治の詩3）「冬のスケッチ」
07	作品鑑賞4（宮沢賢治の詩4）「春と修羅」（序）
08	作品鑑賞5（宮沢賢治の詩5）「永訣の朝」
09	作品鑑賞6（宮沢賢治の詩6）「青森挽歌1」
10	作品鑑賞７（宮沢賢治の詩7）「青森挽歌2」
11	作品鑑賞8（宮沢賢治の童話1）「どんぐりと山猫」
12	作品鑑賞9（宮沢賢治の童話2）「虔十公園林」
13	作品鑑賞10（宮沢賢治の童話3）「ざしき童子の話」
14	作品鑑賞11（宮沢賢治の童話4）「セロ弾きのゴーシュ」①
15	作品鑑賞12（宮沢賢治の童話5）「セロ弾きのゴーシュ」②
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11L0103　心の探求	担当者:森山 雅子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものです。本授業では、目には見えない「こころ」を心理学者がどのように可視化し、人間を理解してきたか説明します。「こころ」とは何かを考え、「心を持つ人間」として、他者と自分をみつめる力を養い、心豊かな人間になる道を探ります。

授業の到達目標
１．心理学の基礎的な考え方やとらえ方を、さまざまな理論や概念、データを通して学び、理解することができる（DP）。
２．「こころ」についてのとらえ方を学び、自分自身の「こころ」や身の回りの「こころ」に関する現象について、理解し、言語化できる（DP）ようになる。３．心理学の理論から他者や集団、社会自体を捉え、説明する（DP）ことができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Moodleを通して、授業の事前・事後課題を課します。
事前課題は、準備学修として、その回のトピックと自分自身を照らし合わせ考える課題です。授業の前日までに実施し提出してください。事前課題の内容を授業中に振り返りながら授業を進めます。
事後課題は、授業後に課す課題です。その回の授業の確認テストや振り返りレポートを課します。授業後提出期限までに速やかに提出してください。
全15回で60時間の授業外学習を要します。

評価方法
確認テスト35%、事前事後課題の提出物65%
課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
使用しません。毎回資料を配布します。	授業時に適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
事前課題を通して自分自身の考えを固めたうえで、授業を受講しましょう。そうすると、心理学の理論が自分のこととして頭に入ってきやすくなると思います。連絡先は授業でお伝えします。

01	イントロダクション一心理学とは。心理学の歴史と方法論
02	心の進化一進化心理学からヒトの特異性について学ぶー
03	心の発達一発達心理学（1）乳幼児
04	ライフサイクルー発達心理学（2）青年期から老年期まで
05	動機づけと情動一やる気や感情のしくみを知る
06	性格一性格の仕組みや性格の病理について知る
07	知能一知能の仕組み、知能テスト、創造性
08	ストレスとメンタルヘルスー臨床心理学（1）ストレスや心の健康について知る
09	カウンセリングと心理療法一臨床心理学（２）カウンセリングについて知る
10	知覚一人の知覚の仕組みについて知る
11	記憶一私たちの記憶の仕組みについて知る
12	学習一条件づけやさまざまな学習について知る
13	社会のなかの人一社会心理学（１）ソーシャルアニマルについて考える
14	心と社会一社会心理学（２）さまざまなジレンマ課題について考える
15	まとめと確認テスト
16	

2024年度シラバス

科目名:OK11L0104　生き方の探求	担当者:今福 亮	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教育科目です。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するものです。本授業は、私たち人間の生き方を根本的に見つめ直す学問である哲学を通じて、「真理を探究できる幅広い視野を身につける」ことで、皆さんの「生き方の探究」のための道具としての「思考力」を磨くことを目指します。具体的には、哲学における様々な問題やそれに対する哲学者たちの考えを、教員が時にSF的なお話を交えながら紹介し、そして皆さん自身がそれらの問題を考え議論することで、「思考力」を養い実践すること、以上が本授業の概要と方法です。

授業の到達目標
①哲学の諸問題と、それらに関する様々な立場を理解すること（DP）。
②「思考力」とは何か、またそれの活用方法を理解すること（DP）。
③上記二つの理解を通じて、自ら「生き方の探究」ができるようになること（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：次回の授業で扱われるテーマを把握し、自分の意見を考える：２時間。
事後学修：前回の授業で紹介された問題とそれに関する立場について復習し、関連する本を読む：２時間。

評価方法
成績評価は、①毎回のコメントペーパーの内容（3%×15回）と、②期末レポート（55%)を総合して判断します。
希望者には提出内容に対するコメントをメールでお送りします。

教科書
教科書はありません。毎回資料を配布します。

参考図書
授業中に指示しますが、以下に一例を記載します。

バジーニ、ジュリアン著（向井和美訳）(2012)『100の思考実験―あなたはどこまで考えられるか』紀伊国屋書店

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「哲学」と聞くと何やら難しそうで身構えてしまうかもしれませんが、あまり気負わず、一緒に授業を楽しみましょう。
連絡先は授業で開示します。

01	「思考」について思考する（１）―命題・否定・矛盾―
02	「思考」について思考する（２）―連言・選言・条件文―
03	「思考」について思考する（３）―演繹・帰納・アブダクション―
04	「思考」について思考する（４）―議論の特定―
05	「思考」について思考する（５）―言葉の意味の確定・前提の検討・推論の検討―
06	火星への旅―アイデンティティについて考える―
07	メアリーの部屋―心って何だろう―
08	ラプラスの悪魔―自由って何だろう（１）―
09	マッドサイエンティスト―自由って何だろう（２）―
10	トロッコ問題―道徳について哲学しよう（１）―
11	ハインツのジレンマ―道徳について哲学しよう（２）―
12	お見舞いの理由―道徳について哲学しよう（３）―
13	経験機械―幸福って何だろう（１）―
14	見知らぬ乗客―幸福って何だろう（２）―
15	レポートについて
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12L0201　生活と経済	担当者:茶谷 淳一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義「生活と経済」は、桜花学の中の「社会を知る」科目群に位置付けられている。社会の土台を形成する経済に関する知見を得ることは、社会に寄与することができる「信念ある女性」となるための必須教養の一つである。授業は基本的に講義形式で行い、現代日本の経済が直面し国民生活に大きく影響している諸課題について説明する。また、調べたり、考えたり、意見をまとめていただきます。それを発表していただくこともある。ノート提出については次回講評する。定期試験はmoodleに模範解答を1週間程度掲載する。

授業の到達目標
経済の基本的なしくみや概念について知ることができる。（DP）また自分たちの生活が経済活動と密接に結びついていることを理解することができるようになる。（DP）また、自分の日常生活が経済の一部であり、わたしたちの行動が社会のあり方を決定しているのだという自覚をもつとともに、社会のあり方について興味を持ち考えるようになる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常的に、経済・社会関連のニュースに関心を払ってほしい。新聞やネットでニュースを読むこと、および、授業での報告準備、復讐のための事後学修として、４時間程度の学修時間が必要である。

評価方法
授業への参加（ノート）20%、定期試験80%
ノート提出については次回講評します。定期試験はmoodleに模範解答を1週間程度掲載します。

教科書 使用せず	参考図書 鎌田雄一郎　ゲーム理論入門の入門　岩波新書　2019年。阿部誠　行動経済学　新星出版　2021年などのほか、授業で用いた資料も。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。最良のテキストはニュースや新聞を読むことである。重要な経済事象が生じた場合は予定を変更し授業で取り上げる。よって予定通りすすまないこともある。

01	授業の目的と方法　経済学が社会を考える手掛かりを与えてくれます
02	人はなぜ「非合理的な意思決定・行動」をするのか①なぜ行列に並ぶのか
03	人はなぜ「非合理的な意思決定・行動」をするのか②ゲーム理論で考える
04	人はなぜ「非合理的な意思決定・行動」をするのか③プロスペクト理論で考える
05	人はなぜ「非合理的な意思決定・行動」をするのか④バイアス
06	人はなぜ「非合理的な意思決定・行動」をするのか⑤なぜ政府が必要か
07	女性の貧困～ビデオ「調査報告　女性たちの貧困」をみる～
08	女性の就労と結婚を経済学で考える①進む女性たちの労働参加
09	女性の就労と結婚を経済学で考える②女性の就労に対する意識の変化
10	女性の就労と結婚を経済学で考える③結婚選択の経済学
11	女性の就労と結婚を経済学で考える④なぜ高齢の単身女性たちは働きつづけるのか
12	現代日本社会の貧困を考える①ヒストグラム
13	現代日本社会の貧困を考える②日本の家庭の所得と貯蓄の分布を見る
14	育児の経済学
15	授業のまとめ～豊かに生きるために
16	定期試験

科目名:OK12L0202　地域社会	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は「社会を知る」の科目です。授業ではまず、人々が生まれ、育ち、学び、働き、自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスと、人々が出会う人間関係と地域の問題を考察します。また、「地域社会で生きていくための課題」を映像資料等により実践的に学びます。

授業の到達目標
　授業では、現代社会の成り立ちや社会問題が問題化されるプロセスを知ること。また、自分自身が生きる地域社会についての理解を深めること（DP◎）。そして、社会全体における問題の構造を見通せる力を育成・獲得することを学修の到達目標とします（DP○）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　単元ごとに配布するワークシートの解答を事後学修とします。授業に参加し、各学生がワークシートに記述した内容をメールで提出します。返却されたワークシートの確認を事後学修として行います。授業期間中に３回、理解度評価（学びについてのレポート作成）を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価90%、ワークシート（毎授業後のまとめ）10%にて行います。理解度評価、ワークシートとも添削・評定をつけて返却します。

教科書	参考図書
嶋守さやか『孤独死の看取り』新評論	適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この科目に関わる基礎的な知識を有すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週火・水・木曜日のお昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	事例から考察する地域社会運動
03	教科書の事例から考察する地域社会運動
04	映像（住民運動）から理解する地域社会
05	第１回　理解度評価および解説
06	事例から考察する地域福祉
07	教科書の事例から考察する地域福祉
08	映像から考察する地域福祉
09	映像から考察する社会福祉援助の現場
10	グループディスカッションおよびプレゼンテーション③
11	第２回　理解度評価および解説
12	映像資料から考える地域社会の課題（前編）
13	映像資料から考える地域社会の課題（後編）
14	教科書の事例から感会える 教科書の事例から考える地域社会の課題
15	第３回　理解度評価および解説
16	なし

科目名:0K12L0203　人間と歴史	担当者:小久保 嘉紀	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「昔話などから見る日本史」
〈授業概要〉
　神話・昔話・童謡・絵本・詩・現代メディアなどに反映される歴史的背景を読み取り、日本の各時代の特徴について考察する。それを踏まえ、各時代の子供の生活や、海外文化の導入の歴史についても考える。
　なお、この授業は桜花学の「社会を知る」分野に位置する。
〈授業方法〉
　講義形式で行う。

授業の到達目標
　昔話などについて、ストーリーだけでなく、そこにどのような歴史的背景があるのかを理解する（「高い教養に関する知識・理解」）。また、各時代の昔話を比較することで、時代ごとに異なる多様な価値観や物事に対する姿勢、そして各時代の人々が目指した志向性についても理解する（「価値観・態度・志向性」）。
【到達目標と深く関連する学科DP】
　◎高い教養に資する知識・理解
　○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修：授業計画で挙げた昔話の内容を把握しておくこと。
　事後学修：授業で挙げた参考文献を読んでみるとよいでしょう。

評価方法
　期末試験70％＋中間レポート30％
　　※中間レポートは評価の上、返却する。

教科書
　無し。

参考図書
　・稲田浩二・稲田和子編『日本昔話ハンドブック』（三省堂、2001年）
　・小澤俊夫『昔話のコスモロジー―ひとと動物との婚姻譚―』（講談社学術文庫、1994年。初出、1979年）
　・古川のり子『昔ばなし―あの世とこの世を結ぶ物語―』（山川出版社、2013年）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業中の私語・スマホ・音楽などは減点になります。なお、座席指定の授業です。また、期末試験は持込不可です。

01	オリエンテーション
02	古代社会と日本神話
03	縄文～古墳時代―「桃太郎」とヤマト朝廷―
04	飛鳥・奈良時代―「浦島太郎」と社会不安―
05	平安時代―「かぐや姫」と貴族社会―
06	鎌倉時代―「金太郎」と武士社会―
07	南北朝・室町時代―「一寸法師」と応仁の乱―
08	戦国時代―「猿カニ合戦」と報復―
09	江戸時代①―動物話と江戸社会―
10	江戸時代②―妖怪話と江戸社会―
11	明治・大正時代―童謡と近代日本―
12	戦前・戦時中の社会―絵本と軍国主義―
13	クリスマスの歴史について
14	戦後の社会―詩と戦後復興―
15	現代社会とメディア
16	無し

2024年度シラバス

科目名:OK12L0301　異文化理解	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この科目は桜花学「世界を知る」科目群に位置付けられている科目です。グローバル社会への理解を深めるという目標をもとに、異文化という観点からコミュニケーションの具体的な事例を取り上げ、異なる文化背景を持った人にどのように伝え、交わるか、また、どのように受け入れ、理解するのかについて考えていきます。さらに、多文化共生社会に中で、いかに円滑に共存できるかについて考察していきます。Active Learning型の授業を実践するため、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れていきます。【AL】

授業の到達目標
　異文化理解や異文化コミュニケーションの諸相に関連する文献を読み、それぞれにおける問題点を文化、言語の関連の枠組みでとらえ、考察を加えることを目指す。(DP)実際に異文化と接触した際に、学んだ知識をもとに適切に行動する力を身につける。また、異なる文化背景の人々を受け入れることができる素地を養う。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から新聞などに目を通し、国際的に問題となっている事柄に関心を持つようにしましょう。また、日常的に様々な人とのコミュニケーションも大切にし、人との関わりに高い意識を持つようにして下さい。さらに、授業内で紹介する異文化コミュニケーションの事例をもとに、自分の周りにある身近な事例をピックアップできるようにしておきましょう。

評価方法
グループワーク・ディスカッション等を含めた授業への参加度　20%　授業レポート　20%　小テスト・小レポート　20%　期末レポート　40%　次回の授業時に前回授業における授業コメントに基づいたフィードバックを全体に行う。

教科書	参考図書
適宜、プリントをMoodle上にアップします。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ディスカッションを多く取り入れていくため、積極的な授業への参加を望みます。発表や授業レポートにおいて、自分の考えを明確に述べることができるよう努力しましょう。(オフィスアワー：木曜昼休み)

01	オリエンテーション
02	異文化コミュニケーション①　文化とは何か
03	異文化コミュニケーション②　自文化への気づき
04	異文化コミュニケーション③　様々な異文化接触
05	異文化理解①　言語と文化の密接な関係
06	異文化理解②　高文脈文化と低文脈文化
07	異文化理解③　社会と言語のつながり
08	異文化理解④　世界における言語使用の現状
09	多文化共生①　非言語コミュニケーション
10	多文化共生②　コードスイッチングとバイリンガリズム
11	多文化共生③　多文化社会について考えよう
12	多文化共生④　多文化共生のためにできること
13	まとめ①　大学生の学びとコミュニケーション（基礎編）
14	まとめ②　大学生の学びとコミュニケーション（応用編）
15	まとめ③　大学生の学びとコミュニケーション（実践編）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12L0302　日本の文化	担当者:布 和	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 特になし		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　これまで、日本或いは日本人について多くの研究があり、そして作者には日本人のほか、外国人も多い。日本或いは日本人論は、日本文化論でもあり、日本文化を理解するに日本或いは日本人を理解しなくてはいけない。本授業は、これらの研究書の一部を取り上げ、学生と一緒に日本の文化について再認識し、議論を通して日本文化を再発見する。本授業は「桜花学」の「世界を知る」という科目群に位置られている（AL）。

授業の到達目標
　日本或いは日本人に関する論を読んで、自身の理解を整理した上、プレゼンテーションを通して自らの意見を発信できる(DP)。グループディスカッションにおいてしっかり自身の意を主張し、また、これらの意見を課題としてのレポートに反映できる(DP)。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解　○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業用の資料を事前に読み、またプレゼンテーションを作成するために授業前後で２時間以上の学習時間が必要である。

評価方法
　授業への参加意欲（30%）・プレゼンテーション　(30%) 及びレポート（40%）で評価する。なお、プレゼン後の質疑応答時間を以ってフィードバックとする。

教科書	参考図書
教科書はないが、プリントを配布する。	授業中に紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業内容は進度によって多少の違いが生じる。教員の連絡先やオフィスアワーを授業中に知らせる

01	授業紹介（世界と日本の社会と文化(資格関連)の異同を中心に日本の文化を紹介する）
02	『日本人論・日本論の系譜』について
03	『外国人による日本論の名著』について
04	『日本人の意識構造』について
05	『タテ社会の人間関係』について
06	『日本人の発想、日本語の表現』について
07	『漢字と日本人』について
08	学生による第１回プレゼンテーション
09	『菊と刀』の紹介
10	『菊と刀』の紹介と討議
11	『20世紀前半の中国留学生の日本記憶』の紹介と討議
12	『日本人の質問』の紹介
13	『日本人の質問』の紹介と討議
14	『喪失の国、日本』の紹介と討議
15	学生による第2回プレゼンテーション
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12L0303　国際関係論	担当者:髙橋 一郎	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は桜花学「世界を知る」科目群に位置付けられている科目です。日常生活で当たり前で正しい(と思われる)事でも、他の国、他の地域に行けば逆に悪い事(と思われること)があります。世界には様々な文化、様々な社会が存在します。全く相反する異なる価値観が存在したとしても私たちは共存していかなければ行けません。そうした国際社会の現状とルールがどうなっているか、を様々な事例から勉強します。毎週最新のニュースを扱いながら、様々な今までの事例を考え、幅広い視野を身につけるようにします。映像と事例を多数示し授業を進めます。様々な実例を見ながら考えながら、授業を進めます　学生によるパワーポイントの発表も予定しています

授業の到達目標
様々な異なった価値観を学びます。その中から自分の考え方、そして広義の意味では自分の生き方を考える機会となるように世の中の動きと今を生きている私たちを取り巻く国際・国内の社会情勢を同時進行的に学び社会に出てから通用する知識を身につけることを目標とします。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
常に社会に目を向け、日々のニュースを新聞・テレビ・インターネット等で見る習慣を身につけるだけでなく、そこから見えてくるもの、内包しているものを見つける姿勢が期待されます。

評価方法
授業毎の平常点レポート40%　　期末試験　40%　　年末課題　20%
課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ノンフィクション分野の読書　時事を扱ったテレビ番組、などを通して自主的に学習することが望ましい。

01	授業概要　（以下の計画は国際状況に応じて講義の順序は変更の場合あり）
02	なぜ争い(戦争)が起きるのか？
03	国際社会におけるルール　～　価値観の違い
04	条約とは　・20世紀映像の時代①（20世紀初頭）
05	国際社会で求める共通性とは　・20世紀映像の時代②（第一次世界大戦）
06	クーデターとは
07	Protocol（プロトコール）
08	20世紀映像の時代③（第二次世界大戦）
09	国際援助の一例～日本の海外援助
10	国際社会における人的交流
11	国際機関はどのように機能しているのか
12	ロシアとウクライナ
13	パレスチナとユダヤ
14	9.11以降のアメリカ
15	最新国際情勢
16	期末試験

2024年度シラバス

科目名:OK12L0304　グローバル社会と宗教	担当者:笹生 友広	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この授業は桜花学園大学のディプロマポリシーに謳う「幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成」することに直結する科目であり、桜花学「世界を知る」に位置付く。
　グローバル社会において、事の大小を問わず諸現象・事象に宗教が少なからずかかわっている。世界の歴史、地理、観光、文化、芸術、政治、経済、風習等について、宗教を横軸として考察し、知識を習得することにより、広い視野を持ち、異文化や共生に理解を示す優れた人材となることを目指す。
　本授業においては、宗教をキーワードとするが、いかなる宗教も支持、批判するものではない。
　グループ学習やグループ発表などを行うと共に、動画、画像を多数利用してわかりやすい講義を心掛ける。毎回のレポートで提出された課題、質問に対して授業の初めにフィードバックする。【AL】

授業の到達目標
① 世界５大宗教や神道の概略を理解し、説明できるようになる
② 日本における仏教（宗派ごと）、その他の宗教の概要を理解し、説明できるようになる
③ 世界の歴史、地理、観光、文化、芸術、政治、経済、風習等について理解し、宗教との関連性を含め
　多様性への理解を深める（DP）
④ 自分の考えと違うものに対しての理解と許容する心を育み、自らも成長する（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で習ったことをヒントに、授業外では宗教や現代社会についてさらに研究を深める。
準備学修：テキスト資料に目を通しておく。授業内容について様々な疑問が浮かぶため、それを書き留めて毎回のレポートで質問する。
事後学修：テキストを見直し、まとめる作業が有効。課題を出すが、自ら学ぶ姿勢が臨まれる。
２単位科目なので１回の授業に対して４時間程度の予習、復習が望ましい。

評価方法
授業態度（30%）、毎回のレポート（30%）、期末レポート（40%）
各レポートについては、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた答案、論文等の紹介をする。

教科書	参考図書
プリントを配布します。	授業にて紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室
毎回のレポートで質問などは随時受け付けます。個別質問はメール、オフィスアワー等を活用してください。

01	10/01 授業オリエンテーション　宗教と信仰、世界三大宗教・五大宗教について
02	10/08 中東の宗教／旧約聖書について
03	10/15 ユダヤ教について①発生からの歴史
04	10/22 ユダヤ教について②中世・近代から現代まで
05	10/29 キリスト教について①発生からの歴史
06	11/05 キリスト教について②宗派、聖地について
07	11/12 イスラム教について①発生からの歴史
08	11/19 イスラム教について②中東発生の理由とパレスチナ問題
09	11/26 ヒンドゥー教について
10	12/03 仏教について①発生からの歴史
11	12/10 仏教について②日本伝来と宗派について
12	12/17 神道について①：発生からの歴史
13	12/24 神道について②：伊勢神宮と八百万の神　古事記
14	01/07 儒教について／その他の宗教について／差別・紛争について
15	01/14 まとめ（現代社会と宗教感、多様性と共生、心のよりどころについて）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12K1001　スポーツ健康論	担当者:寺田 恭子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成することを基とし、より良く生きるために再考すべき課題を健康とスポーツというキーワードから発見・探求していく。
生涯に渡って心身共に健康な生活を送ることができるための知識と態度の習得は、社会を構成する一員として、社会の発展に寄与することができると考える。

授業の到達目標
健康とスポーツというキーワードを通し様々な課題解決に取り組むことは、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにつがる(DP)。より良い生活行動習慣と考え方を探り、そのプロセスを通して豊かな人間性を自ら育て、現代における多様な課題を発見、分析、解決できる力を醸成する(DP)。本授業ではこのような総合的な力を身につけ、広く社会の発展に寄与し貢献できる人材となることを目標とする(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃からスポーツや健康に関する情報について関心をもち、新聞やニュースをよく読んだり聞いたりすること。

評価方法
受講態度・提出課題(毎回&特別レポート)評価:40%　筆記試験結果:60%　以上を総合して評価する。フィードバックは毎回のリアクションペーパーを使用して行います。

教科書	参考図書
特になし。その都度プリントを配布する。	各教員がその都度連絡する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義内では、みなさんの意見･体験などを発表することや、簡単な実技等を行う場合もある。積極的に参加すること。連絡手段はメールを使用します。

01	オリエンテーション　健康とスポーツを学ぶにあたって
02	自分の身体を見つめ直そう　身体のしくみ・様々なホルモンの働き
03	私たちが直面する健康上の問題につい①（生活習慣病・心の病気など）
04	私たちが直面する健康上の問題について② 病気（様々な癌など） 女性が直面する健康上の問題について② 病気（乳がん　子宮頸がんなど）
05	エイズの世界的蔓延から現代のコロナウイルスまで。病気への差別や偏見と私たちの意識
06	1980年代アメリカ、1990年代日本、2000年のタイのエイズ関連事情から学びを深める
07	生と死について考える（病気・障がいとの向き合い方）
08	ダイエットと肥満・喫煙と飲酒など嗜好品について
09	オリンピックの歴史的変遷とスポーツ文化について考える
10	パラリンピックの歴史的変遷とスポーツ文化について考える
11	スペシャルオリンピックス・重度障害者とスポーツ
12	映画を通してスポーツの可能性について考える
13	ゆるスポーツについて知り、スポーツとは何かを考える
14	体力について知る・子どもとスポーツ
15	本講義のまとめ
16	確認試験

科目名:OK11K1101　コンピュータⅠ	担当者:鐘ヶ江 みづほ、鬼頭 恭子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　コンピュータⅠでは、課題や目的に応じてパソコンやアプリケーションを適切に活用し、その解決に向けて情報を収集・分析する力を身につけることを目標とする。Windows操作、メールの送受信、文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本操作を演習形式で学習する。なお。授業で使用するパソコン・マウスは、毎回各自が準備し持参する。持ってこない場合は受講できない（メーカー修理の場合を除く）。

授業の到達目標
１．自身の持つPCの操作方法を習得する。
２．Office ソフトを利用した情報の整理収集・分析・表現方法を習得する。【DP】
３．情報モラルと情報セキュリティを理解し、安全にPCを使用することができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、パソコンの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。また、この時期に日常的にタイピング練習を行っておくこと。moodleやメールにて指示があるので確認する。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）
課題の評価に関してはルーブリックを参照すること。
課題に対するフィードバック方法について
全体的な講評、模範解答等を印刷配付・メール配信・Ohka moodle等により伝達する。

教科書	参考図書
日本語ワープロ検定　２・準２級　模擬問題集　表計算検定　２・準２級編　模擬問題集 文書デザイン検定　１級編　模擬問題集　ＦＯＭ出版　情報モラル＆情報セキュリティ	適宜授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【初回授業前に準備しておくこと】各自パソコンをセットアップし、使用できる状態にしておくこと。また、アプリやセキュリティソフトのアカウント登録の際のアドレス・パスワード等の詳細を必ず記録し管理しておくこと。準備していない場合、受講できない。
　初回授業では開始直ぐにクラス分けテストを実施するので、必ず準備したパソコン・マウスを持参すること。次回授業から習熟度別のクラス分けを行い、経験に合わせて指導を行う。毎回、充電済みのパソコン・マウスを持参すること。状況により授業計画の回数・内容が変更になる場合がある。

01	ガイダンス１（クラス分けタイピングテスト、大学無線LANへの接続、Moodle・Gmail登録）
02	ガイダンス２（習熟度別クラス分け後moodleコース登録、プリンタの設定、授業で必要なアプリのインストール）
03	Word基本１（基本的なビジネス文書）インターネット　ブラウザの基本操作と情報モラル
04	Word基本２（表を含んだビジネス文書）
05	Word基本３（図や図形を含んだビジネス文書）
06	Word課題作成１（オリジナルビジネス文書作成）
07	Word課題作成２（園だより作成）
08	PowerPoint基本１（基本操作）
09	PowerPoint基本２（アニメーション）
10	PowerPoint課題作成１（自己紹介スライド作成）
11	PowerPoint課題作成２（保育や教育学に関するテーマでスライド作成）
12	Excel基本１（四則演算集計）
13	Excel基本２（オートサムボタン）
14	Excel基本３（グラフの基本操作）
15	Excel課題、小テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11K1101　コンピュータⅠ	担当者:佐久間 潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
1.授業内容　　コンピュータⅠではパソコンの基本操作を学ぶ。Windows操作または、MAC OS X操作、メールの送受信、文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本操作を演習形式で学習する。
ディプロマポリシーに記された「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」を醸成する。

授業の到達目標
　学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、パソコンの基本操作を習得することを目標とする。現在最も普及しているソフトの一つであるWord、PowerPointとExcelの基礎の習得を目指し、今後の学生生活においてコンピュータを活用できることはもちろん、社会の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。
【ＤＰ】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、パソコンの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。
また、この時期に日常的にタイピング練習を行っておくこと。Ohka moodleやメールにて指示があるので確認する。 毎回の授業でわからないことは、Ohka Moodleの動画教材を利用して解決、さらに予習・復習に利用する。
情報モラルは使う側の「モラルを守る姿勢」が重要です。特にネットの活用にはその自覚が必要！各授業について必要時間（1時間）

評価方法
受講態度・平常点（４０％）、Office製品（Word,Excel,PowerPoint）等の各課題・試験の評価（３０％）、その他の課題（試験）（３０％）課題等に対するフィードバックについては、印刷物などで返却する。

教科書	参考図書
日本語ワープロ検定　２・準２級　模擬問題集、表計算検定　２・準２級編　模擬問題集、文書デザイン検定　１級編模擬問題集、ＦＯＭ出版　情報モラル＆情報セキュリティＦＯＭ出版　情報モラル＆情報セキュリティ＜改訂版＞	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡用メールアドレス：sakuma@ohkagakuen-u.ac.jp　毎回、動画教材の確認と充電を完了させて持参する。
保育学部：初回に、クラス分けテストを行い、経験に合わせて指導を行う。

01	オリエンテーション　　（パソコン仕様確認、ブラインドタッチタイピング）
02	パソコンの基礎　パソコンの基本構成と基本操作　　（Mac Book Air）
03	インターネット　ブラウザの基本操作（サファリとグーグルクロム）
04	WORD基本１（WORDの基本操作）
05	WORD基本2（ビジネス文章の基本）
06	WORD基本3（図・表・図形のあるビジネス文章）
07	WORD課題作成
08	Power Point基本１（Power Pointの基本操作）
09	Power Point基本2（アニメーション）
10	Power Point課題の作成
11	Power Point課題の発表
12	表作成 基本１（基本構成と四則演算、集計）
13	表作成 基本2（Σ（オートサム）ボタン）
14	表作成 基本3（関数とグラフ作成の基礎）
15	表作成（まとめ）
16	なし

科目名:OK12K1101　コンピュータⅡ	担当者:鐘ヶ江 みづほ、鬼頭 恭子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　コンピュータⅡでは、課題や目的に応じてパソコンやアプリケーションを適切に活用し、その解決に向けて情報を収集・分析する力や自己の見解を適切に発信・伝達できる力を身につける。また個人情報の扱い、著作権、ネットワーク上のルール・マナー等の情報モラルや情報セキュリティの理解を深め、正しく情報活用するために的確な判断ができる力を育成するとともに、Word,Excel,PowerPointの応用操作を演習形式で学習する。

授業の到達目標
１．Office ソフトを利用した情報の整理収集・分析・表現方法を習得する。【DP】
２．今までに習得した知識や技術に基づき、独創的な作品を創作することができる。
３．情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任について理解し、情報モラルをもって、情報を収集・加工・整理し、分析・解釈することができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目してみると良い。その都度moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行っておく。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）
課題の評価に関してはルーブリックを参照すること。
課題に対するフィードバック方法について
全体的な講評、模範解答等を印刷配付・メール配信・Ohka moodle等により伝達する

教科書	参考図書
前期使用のもの、適宜資料配布	適宜授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、充電済みのパソコン・マウスを持参すること。状況により授業計画の回数・内容が変更になる場合がある。

01	オリエンテーション　（Wordビジネス文書復習）
02	Word応用課題１（ビジネス文書応用）
03	Word応用課題２（デザイン文書・チラシ作成）
04	Word応用課題３（デザイン文書・おたより作成）
05	Word応用課題４（デザイン文書・おたより作成）
06	Excel応用課題１（関数１、グラフ１）
07	Excel応用課題２（関数２、グラフ２）
08	Excel応用課題３（関数３、グラフ３）
09	Excel応用課題４（データベース機能などの便利な機能の活用）
10	総合課題（ExcelとWordとの連携）
11	PowerPoint応用課題１（テーマ決定、骨格作成）
12	PowerPoint応用課題２（詳細部作成）
13	PowerPoint応用課題３（発表準備）
14	パソコン検定模擬練習１（過去問題を使用して計測練習と自己採点）
15	パソコン検定模擬練習２（過去問題を使用して計測練習　弱点等最終確認）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12K1101　コンピュータⅡ	担当者:佐久間 潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
1. 授業内容　コンピュータⅠを受けてセキュリティとPCの基本技能を進化させる。特にMicrosoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）2. 授業方法　WindowsPCまたはMAC Book Airを使用し、演習授業を通じてPCを活用するスキルを習得する3. 他の授業との関係　すべての授業科目でのレポート作成・レポート提出に活用できるようにする。
ディプロマポリシーに記された「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」を醸成する。

授業の到達目標
　前期で学習したコンピュータⅠで身につけたスキルを踏まえてさらに利活用するスキルを高める。1. Microsoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）の応用操作ができる。オフィス製品を利用して総合的なビジネス文書や園だより等の効率的な作成や計算処理、プレゼン準備ができる。今後の学生生活、また、将来社会現場でPCを使いこなすためのスキルを身につけることを目標とする。【ＤＰ】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目すると良い。
moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行い10分間に最低500文字が入力可能なスキルを身に着ける。各授業について必要時間（1時間）

評価方法
受講態度・平常点（４０％）、Office製品（Word,Excel,PowerPoint）等の各課題・試験の評価（３０％）、その他の課題（試験）（３０％）課題等に対するフィードバックについては、印刷物などで返却する。

教科書 前期使用のもの	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡用メールアドレス：sakuma@ohkagakuen-u.ac.jp
毎回、動画教材の確認と充電を完了させて持参する。状況により授業計画の回数・内容が変更になる場合がある。

01	オリエンテーション（前期の復習）
02	WORD応用１（WORDの応用操作）
03	WORD応用2（デザイン文章の作成）
04	WORD応用3（デザイン文章　ちらし・パンフレット）
05	WORD課題
06	表作成 応用１（関数１）
07	表作成 応用2（関数２）
08	表作成 応用3（関数３）
09	表作成 応用4（便利な応用機能）
10	表作成（グラフ作成の応用）
11	Office製品の連携（WORD・EXCEL・Power Point）
12	Power Point応用１（Power Pointの応用操作）
13	Power Point応用2（アニメーション）
14	Power Point課題の作成
15	総合課題または試験
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12K1201　インターンシップ（海外）A	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand languages and various cultures from a global perspective as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 5 days (20 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%

Feedback will be given during all stages of the overseas internship process both in person and by email.
Presentation feedback will be given to students by presentation rubric.

教科書	参考図書
Textbooks: supplies as needed	Reference Books and other Course Materials: supplies as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Committee and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.
Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

01	To be developed for each overseas internship on a case-by-case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	

14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK12K1202　インターンシップ（海外）B	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand languages and various cultures from a global perspective as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 10 days (40 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.
Feedback will be given during or at the end of the internship

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%
Feedback will be given during all stages of the overseas internship process both in person and by email.
Presentation feedback will be given to students by presentation rubric.

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Committee and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.

01	To be developed for each overseas internship on a case-by-case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	

15	
16	

科目名:OK12K1203　インターンシップ（海外）C	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	3
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand languages and various cultures from a global perspective as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎価値観・態度・志向性
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 15 days (60 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.
Feedback will be given during or at the end of the internship

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%
Feedback will be given during all stages of the overseas internship process both in person and by email.
Presentation feedback will be given to students by presentation rubric.

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Committee and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.
Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

01	To be developed for each overseas internship on a case-by-case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	

14	
15	
16	

科目名:OK12K1204　インターンシップ（海外）D	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand languages and various cultures from a global perspective as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎価値観・態度・志向性
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 20 days (80 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.
Feedback will be given during and at the end of the internship

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%

Feedback will be given during all stages of the overseas internship process both in person and by email.
Presentation feedback will be given to students by presentation rubric.

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Committee and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.

01	To be developed for each overseas internship on a case-by-case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	

15	
16	

科目名:OK12K1205　ボランティア（国内）	担当者:笹生 友広	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
授業概要と方法
　NPO/NGO、企業、政府機関、地方自治体、私立機関、観光機関等でボランティア活動に参加することにより、学生たちが成長し、経験し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。このことには、「信念ある女性（人）」を育成し、社会の発展に貢献できる能力を身につけることを教育目標としている本学のディプロマポリシーが反映されている。
　多岐にわたる活動が可能であり、担当者とともに話し合って決定する。なお、１年次の後期から４年次まで実習可能であるが、４年次の１月までにボランティア活動は完了している必要がある。

授業の到達目標
授業の到達目標
　本実習授業では、学生に、他者やコミュニティを助ける貴重な経験を与えることを目標とする。こうした活動を通して、卒業後も人生を通して様々な分野で活かすことのできるボランティア精神を養うことが期待される。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
「学芸学部英語学科」
　◎グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力
　○グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力
「国際学部国際学科」
　◎地域・国際社会の実践的・文化的問題への理解力
　○国際社会の課題への批判的思考、論理的・創造的発信による主体的行動力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
活動条件、準備学修、活動、事後学修として行うべきこと
【活動実施条件】
　１　国内でのボランティア活動を４０時間以上実施すること。
　　a）一つの活動を４０時間行う場合　　b）複数種類の活動を総合して４０時間とする場合がある。
　２　２４か月以内に４０時間を達成すること。
【注意事項】
　履修登録：ボランティア活動が複数期、複数年度にわたる場合は、最終的に４０時間に到達する期に
　　履修登録を行うこと。
【準備】
　１「ボランティア（国内）活動申請フォーム」（Moodle）を担当者に提出する。本申請フォームにおいて、
　　日程、時間、各活動の目的、各活動の責任団体の情報を提示し、担当者に許可を求める。
　２「ボランティア活動報告フォーム」（Moodle）を大学に提出する。
　３　活動計画を立て、各活動に必要な準備を行い、事前打ち合わせ等に積極的に参加する。
　４　準備期間中に実践した事柄を日誌として記録すること。
【活動の実施】
　　計画通りに実施し、活動内容が担当者に伝わるよう具体的に記録をとり、日誌として残すこと。
【活動後の担当者への提出物】
　１　準備及び活動中の日誌
　２　全ボランティア活動の総合的なポートフォリオ
　３　各ボランティア及び活動全体のリフレクション

評価方法
評価方法 本科目は下記の事項の提出および達成することで「認定」される。
提出を指示した課題（ポートフォリオや日誌）について、教員からの評価は個別面談、
またはEメールによって各自に伝えることとする。
１「活動申請フォーム」提出（計画立案）、準備活動、「活動報告フォーム」の大学への提出【１０％】
２　日誌とポートフォリオの提出【３０％】
　a）ポートフォリオ：<一種のボランティアを４０時間以上実施>英語900-1350語または日本語2400-3600字
　　<複数のボランティアを総合して４０時間以上実施>計画に応じて担当者より指示する
　b）リフレクション：ボランティア活動全体を通した内容とする。英語450語または日本語1200字
　c）日誌　　：準備期間及び活動中の記録　複数の活動を統合した場合もまとめて提出
３　ボランティア活動の積極的な参加【６０％】

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
その他（受講要件、学生へのアドバイス、連絡手段等）
希望者は担当教員に連絡すること。プログラム全期間中、担当教員と緊密に連絡を取り合いながら実施することが大切である。各活動に応じて計画を立案する。

連絡先　国際学部国際学科 笹生　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	

08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OK12K1205　ボランティア（海外）	担当者:田端 智美、嶋守 さやか、Shannon Kiyokawa	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「信念ある女性(人）の育成」および建学の精神である「心豊かで気品に富み、洗練された近代人の育成」を踏まえ、桜花学園大学の共通科目として、汎用的能力の育成を目指す。この科目では、国際的なNGO・企業・国際機関等でボランティア活動に参加することにより、学生自らが成長し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。子ども・障がい者・貧しい人、病める人等の環境・コミュニティでボランティア活動を通して実習を行う。担当者と話し合いを持って活動を決定する。１年時後期から４年次までの実習が可能であるが、４年次１月までに活動を完了することとする。

授業の到達目標
子ども・障がい者等の環境・コミュニティでボランティアすることにより、貴重な海外経験を過ごし、自らの能力を高めることが目標である。こうした活動を通して、様々な分野でボランティアする精神を養う。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
活動実施条件：（１）海外でのボランティア活動を10日間（60時間）以上行うこと（２４ヶ月以内に60時間を達成すること）　①１つの活動を60時間以上行う場合　②複数種類の活動を総合して60時間以上行う場合　①②のいずれかに該当すること　（２）海外機関ボランティア許可書・ボランティア活動申込書を提出し、担当者に許可を求める。　（３）ボランティア活動届を提出する。　（４）準備期間も含め、活動を日誌にして提出　（５）活動報告を行う　（６）レポートを作成する

評価方法
学修活動（１）～（４）について評価する。活動内容２０％・日誌４０％・レポート２０％・態度２０％で採点する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書 特になし	参考図書 特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
希望者は、担当教員と相談を行い、活動の立案を行うこと。
田端　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp　嶋守　shimamori@ohkagakuen-u.ac.jp

01	希望者は担当者と連絡を取り授業を計画すること。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OK11K1301　総合英語Ⅰ	担当者:内田 政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、学生が、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%
内容のフィードバックや小テストの返却は、採点後翌週行うものとする

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他　Live Escalate Book1　(成美堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み)

01	Placement Test
02	Unit 1：Meeting New People (Conversation & Grammar)
03	Unit 1：Meeting New People (Reading & Writing)
04	Unit 2：School Life (Conversation & Grammar)
05	Unit 2：School Life (Reading & Writing)
06	Unit 3：Seeing a Doctor (Conversation & Grammar)
07	Unit 3：Seeing a Doctor　(Reading & Writing)
08	Unit 4：Expressing Yourself (Conversation & Grammar)
09	Unit 4：Expressing Yourself (Reading & Writing)
10	Unit 5：Getting Around (Conversation & Grammar)
11	Unit 5：Getting Around　(Reading & Writing)
12	Unit 6：Getting Around (Conversation & Grammar)
13	Unit 6：　Getting Around (Reading & Writing)
14	Review Unit 1～3
15	Review Unit 4～6
16	Final Exam

科目名:OK11K1301　総合英語Ⅰ	担当者:石川 香代子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。身近なトピックを扱ったテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身に付け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになることを目標とします。【DP】さらに、Phrase Learningを通して日常会話で必要とされる語彙や表現の基礎の習得を目指します。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

小テストは採点後、翌週返却。定期テストは秋学期の初回の授業でフィードバックする。

教科書	参考図書
角山照彦 Live ABC Editors　Live Escalate Book 2（成美堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Placement Test
02	Unit 1：Occupations (Listening & Speaking)
03	Unit 1：Occupations (Reading & Writing)
04	Unit 2：At the Dinner Table (Listening & Speaking)
05	Unit 2：At the Dinner Table(Reading & Writing)
06	Unit 3：Sports (Listening & Speaking)
07	Unit 3：Sports (Reading & Writing)
08	Unit 4：Health (Listening & Speaking)
09	Unit 4：Health (Reading & Writing)
10	Unit 5：What’s on Your Playlist? (Listening & Speaking)
11	Unit 5：What’s on Your Playlist? (Reading & Writing)
12	Unit 6：At the Movies (Listening & Speaking)
13	Unit 6：At the Movies(Reading & Writing)
14	Unit 7：Review p70 & 71
15	Unit 7：Review p72 & 73
16	定期テスト

2024年度シラバス

科目名:OK11K1301　総合英語Ⅰ	担当者:奥田 由美子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:Ⅰを履修していなければⅡは履修できない		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　これまで学んできた英語の復習をすることで、学生が、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%
内容のフィードバックや小テストの返却は、採点後翌週行うものとする

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他 Live Escalate Book1 （成美堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み)

01	Placement Test
02	Unit 1：Meeting New People (Conversation & Grammar)
03	Unit 1：Meeting New People (Reading & Writing)
04	Unit 2：School Life (Conversation & Grammar)
05	Unit 2：School Life (Reading & Writing)
06	Unit 3：Seeing a Doctor (Conversation & Grammar)
07	Unit 3：Seeing a Doctor (Reading & Writing)
08	Unit 4：Expressing Yourself (Conversation & Grammar)
09	Unit 4：Expressing Yourself (Reading & Writing)
10	Unit 5：Getting Around (Conversation & Grammar)
11	Unit 5：Getting Around (Reading & Writing)
12	Unit 6：Getting Around (Conversation & Grammar)
13	Unit 6： Getting Around (Reading & Writing)
14	Review Unit 1～3
15	Review Unit 4～6
16	Final Exam

科目名:OK11K1301　総合英語Ⅰ	担当者:森 なほみ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:Ⅰを履修していなければⅡは履修できない		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。

授業の到達目標
　これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。単語の学習や文法等の理解を深める資料をMoodleに掲載しますので、事前・事後学修に活用してください。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%
最終授業時にフィードバックを行う

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他Live Escalate Book 2（成美堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。連絡先は授業内で開示します。

01	Placement Test
02	Unit 1：Occupations (Listening & Speaking)
03	Unit 1：Occupations (Reading & Writing)
04	Unit 2：At the Dinner Table (Listening & Speaking)
05	Unit 2：At the Dinner Table(Reading & Writing)
06	Unit 3：Sports (Listening & Speaking)
07	Unit 3：Sports (Reading & Writing)
08	Unit 4：Health (Listening & Speaking)
09	Unit 4：Health (Reading & Writing)
10	Unit 5：What’s on Your Playlist? (Listening & Speaking)
11	Unit 5：What’s on Your Playlist? (Reading & Writing)
12	Unit 6：At the Movies(Listening & Speaking)
13	Unit 6：At the Movies(Reading & Writing)
14	Unit 7：Review p70 & 71
15	Review Unit 4~6
16	Unit 7：Review p72 & 73

科目名:OK12K1301　総合英語Ⅱ	担当者:内田 政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生に身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、学生が基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけ、日常的に必要となる英語を使用することができるようになる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%　前回のフィードバックや小テストの返却・復習は、翌週行います。

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他　Live Escalate Book 1(成美堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Class Orientation
02	Unit 7：Eating Out (Conversation & Grammar)
03	Unit 7：Eating Out (Reading & Writing)
04	Unit 8： At the Supermarket (Conversation & Grammar)
05	Unit 8： At the Supermarket (Reading & Writing)
06	Unit 9：Hobbies (Conversation & Grammar)
07	Unit 9：Hobbies (Reading & Writing)
08	Unit 10：Shop Till You Drop (Conversation & Grammar)
09	Unit 10：Shop Till You Drop (Reading & Writing)
10	Unit 11：Going on Vacation (Conversation & Grammar)
11	Unit 11：Going on Vacation (Reading & Writing)
12	Unit 12：Sports (Conversation & Grammar))
13	Unit 12：Sports (Reading & Writing)
14	Review Unit 7～9
15	Review Unit 10～12
16	Final Exam

科目名:OK12K1301　総合英語Ⅱ	担当者:石川 香代子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。身近なトピックを扱ったテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身に付け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになることを目標とします。【DP】さらに、Phrase Learningを通して日常会話で必要とされる語彙や表現の基礎の習得を目指します。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
　授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

小テストは採点後、翌週返却。

教科書	参考図書
角山照彦　Live ABC editors　Live Escalate Book 2（成美堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Review of the spring semester
02	Unit 7 : Techonology in Daily Life (Listening & Speaking)
03	Unit 7 : Techonology in Daily Life (Reading & Writing)
04	Unit 8 : Social Network (Listening & Speaking)
05	Unit 8 : Social Network (Reading & Writing)
06	Unit 9 : Looking on the Bright Side (Listening & Speaking)
07	Unit 9 : Looking on the Bright Side (Reading & Writing)
08	Unit 10 : Love Affairs (Listening & Speaking)
09	Unit 10 : Love Affairs (Reading & Writing)
10	Unit 11 : Storytelling (Listening & Speaking)
11	Unit 11 : Storytelling (Reading & Writing)
12	Unit 12 : The Power of Words (Listening & Speaking)
13	Unit 12 : The Power of Words (Reading & Writing)
14	Review 2 p134 & p135
15	Review 2 p136 & p137
16	定期テスト

科目名:OK12K1301　総合英語Ⅱ	担当者:奥田 由美子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: Ⅰを履修していなければⅡは履修できない		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生に身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　これまで学んできた英語の復習をすることで、学生が基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけ、日常的に必要となる英語を使用することができるようになる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%　前回のフィードバックや小テストの返却・復習は、翌週行います。

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他　Live Escalate Book 1(成美堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Class Orientation
02	Unit 7：Eating Out (Conversation & Grammar)
03	Unit 7：Eating Out (Reading & Writing)
04	Unit 8： At the Supermarket (Conversation & Grammar)
05	Unit 8： At the Supermarket (Reading & Writing)
06	Unit 9：Hobbies (Conversation & Grammar)
07	Unit 9：Hobbies (Reading & Writing)
08	Unit 10：Shop Till You Drop (Conversation & Grammar)
09	Unit 10：Shop Till You Drop (Reading & Writing)
10	Unit 11：Going on Vacation (Conversation & Grammar)
11	Unit 11：Going on Vacation (Reading & Writing)
12	Unit 12：Sports (Conversation & Grammar))
13	Unit 12：Sports (Reading & Writing)
14	Review Unit 7～9
15	Review Unit 10～12
16	Final Exam

科目名:OK12K1301　総合英語Ⅱ	担当者:森　なほみ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: Ⅰを履修していなければⅡは履修できない		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生に身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。

授業の到達目標
　これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。単語の学習や文法等の理解を深める資料をMoodleに掲載しますので、事前・事後学修に活用してください。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%
最終授業時にフィードバックを行う

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他　Live Escalate Book 2(成美堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。連絡先は授業内で開示します。

01	Class Orientation
02	Unit 7 : Techonology in Daily Life (Listening & Speaking)
03	Unit 7 : Techonology in Daily Life (Reading & Writing)
04	Unit 8 : Social Network (Listening & Speaking)
05	Unit 8 : Social Network (Reading & Writing)
06	Unit 9 : Looking on the Bright Side (Listening & Speaking)
07	Unit 9 : Looking on the Bright Side (Reading & Writing)
08	Unit 10 : Love Affairs (Listening & Speaking)
09	Unit 10 : Love Affairs (Reading & Writing)
10	Unit 11 : Storytelling (Listening & Speaking)
11	Unit 11 : Storytelling (Reading & Writing)
12	Unit 12 : The Power of Words (Listening & Speaking)
13	Unit 12 : The Power of Words (Reading & Writing)
14	Review 2 p134 & p135
15	Review 2 p136 & p137
16	Final Exam

2024年度シラバス

科目名:OK11K1302　ポルトガル語と文化Ⅰ	担当者:富松 エミ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカッションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介します）（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば、ブラジル料理の店などを紹介したい

評価方法
（出席・.授業参加度・意欲・関心）20%・提出物20%・小テスト20%・発表・レポート20%会話テスト20%
フィードバックは、授業時等において、提出物や小テスト、発表やレポート等について個別あるいは全体講評にて行う。

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	ポルトガル語のこととブラジルのこと
02	ポルトガル語の文字と発音１
03	ポルトガル語の文字と発音練習問題
04	挨拶と簡単な日常会話１
05	挨拶と簡単な日常会話２
06	名詞の性と数
07	否定文と疑問文
08	ブラジルと日本の違い
09	４～７の練習問題
10	ＳＥＲ動詞１とグループ作り　（ブラジルの事調べ）
11	ＳＥＲ動詞2 とグループ活動　（ブラジルの事調べ）
12	形容詞とグループ活動　発表の準備
13	グループ発表
14	ブラジルの食文化とブラジルの料理作り
15	会話テスト、まとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12K1302　ポルトガル語と文化Ⅱ	担当者:富松 エミ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカッションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介します）（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば、ブラジル料理の店などを紹介したい

評価方法
(出席・.授業参加度・意欲・関心)20%・提出物20%・発表30%・会話テスト30%
フィードバックは、授業時等において、提出物や小テスト、発表やレポート等について個別あるいは全体講評にて行う。

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	前期のおさらい
02	所有詞と練習問題
03	命令形と指示詞
04	ＥＳＴＡＲ動詞
05	17～18の練習問題と会話の練習
06	グループで会話作り
07	ＱＵＥＲＥＲ動詞と数詞と会話の練習
08	会話の発表・ＳＥＲとＥＳＴＡＲの違い
09	場所の副詞と時間の言い方
10	20～22の練習問題と会話の練習
11	ＴＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
12	ＰＯＤＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
13	ブラジルについてのグループ発表
14	ブラジルのお菓子作り
15	会話テスト、まとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11K1303　スペイン語と文化Ⅰ	担当者:ロンセロス ロサリオ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
スペイン語と文化Iは学生の選択科目で、スペイン語の基礎とスペイン語圏の文化を勉強します。初めてスペイン語を勉強する学生を対象とします
各レッスンの学習方法は、ショート・ダイアログを基とし、そしてその各レッスンにおいては有用な単語及びコミュニケーションの場面において必要不可欠な文法を学習します。
演習においては、文法をより深く理解させ、応用練習では、聞く力と話す力を試します。

授業の到達目標
このクラス（コース）においては、簡単な方法でスペイン語の基礎的な考えを理解し学習出来るよう、また同様にスペイン及びラテンアメリカの文化をも理解できるようにします。(DP)
具体的には、4つの要素：話す、読む、書く、聞く　を演習しながら、特にコミュニケーションの部分に力を入れながら習得させる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
家庭でテレビ番組やインターネットを利用して自分に興味のあるスペイン語やスペイン文化に関する事柄について調べる。（旅行、スポーツ、料理、芸能人等々）　授業への準備（予習）と復習（各授業について１時間）。

評価方法
評価の基本は、「学習の継続」を旨とします。授業の出席は最重要であり、その授業での積極的な参加と言う点において、生徒の大まかな評価を得るものとする。
具体的には、2回小テストを行います。最終的な各個の評価は、次の様な構成となります。
1. 授業への参加態度、提出物（出席と各授業で指示される課題)、会話小テスト　50%
2. 確認テスト 2回　(小テスト)　50%
(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。
合計　100%

フィードバック：各人の学習の「深度」学習への「取り組み」によって弱点と思われるポイントを指摘し、改めて「課題」に取り組ませる。

教科書	参考図書
¡Hola! ¿Qué tal? 「やあ、元気？」Chieko Tsujimoto, Yoshimi Isono, Nami Futamura　朝日出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業への準備（予習）と復習。
このコースに関する質問、不安などがある者は授業者ロサリオ・ロンセロスにEメールでコンタクトをとること。
アドレス：rosariohilario@hotmail.com

01	ガイダンス、資料の配布、自己紹介、 アルファベットの歌
02	第１課　挨拶の練習、 アルファベット
03	第１課　発音練習 、スペルの練習
04	第 2 課　名詞の性と数 、冠詞と冠詞形容詞
05	第 2 課　数詞、会話練習
06	第 5 課　動詞 ser、動詞 serの使い方
07	第 5 課　職業、特徴や性質を表わす形容詞
08	確認テスト（１）、疑問詞、自己紹介　※ ペルーの昔の子供の遊びの紹介(ゲーム)。
09	第 5 課　国名、国籍（名詞・形容詞）、会話練習
10	第 6 課　曜日・月・時間・日付・値段
11	第 6 課　指示形容詞、指示代名詞、会話練習
12	第 7 課　動詞 estar、動詞 estarの使い方
13	第 7 課　場所を表す前置詞、前置詞句、会話練習
14	第 7 課　動詞 haber (hay)、動詞 haberの使い方　※授業評価アンケート
15	総復習とまとめ、確認テスト (2)
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK12K1303　スペイン語と文化Ⅱ	担当者:ロンセロス ロサリオ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
スペイン語と文化II は1年生の選択科目で、スペイン語と文化Iの続きで、スペイン語の基礎とスペイン語圏の文化を勉強し、入門を終えた学生を対象とします。
各レッスンの学習方法は、ショート・ダイアログを基とし、そしてその各レッスンにおいては有用な単語及びコミュニケーションの場面において必要不可欠な文法を学習します。
演習においては、文法をより深く理解させ、応用練習では、聞く力と話す力を試します。

授業の到達目標
このクラス（コース）においては、簡単な方法でスペイン語の基礎的な考えを理解し学習出来るよう、また同様にスペイン及びラテンアメリカの文化をも理解できるようにします。(DP)
具体的には、4つの要素：話す、読む、書く、聞く　を演習しながら、特にコミュニケーションの部分に力を入れながら習得させる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
家庭でテレビ番組やインターネットを利用して自分に興味のあるスペイン語やスペイン文化に関する事柄について調べる。（旅行、スポーツ、料理、芸能人等々）　授業への準備（予習）と復習（各授業について１時間）。

評価方法
評価の基本は、「学習の継続」を旨とします。授業の出席は最重要であり、その授業での積極的な参加と言う点において、生徒の大まかな評価を得るものとする。
具体的には、2回小テストを行います。最終的な各個の評価は、次の様な構成となります。
1. 授業への参加態度、提出物（出席と各授業で指示される課題)、会話小テスト　50%
2. 確認テスト 2回　(小テスト)　50%
　(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。
合計　100%
フィードバック：各人の学習の「深度」学習への「取り組み」によって弱点と思われるポイントを指摘し、改めて「課題」に取り組ませる。

教科書	参考図書
¡Hola! ¿Qué tal? 「やあ、元気？」Chieko Tsujimoto, Yoshimi Isono, Nami Futamura　朝日出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業への準備（予習）と復習。
このコースに関する質問、不安などがある者は授業者ロサリオ・ロンセロスにEメールでコンタクトをとること。
アドレス：rosariohilario@hotmail.com

01	ガイダンス、自己紹介、スペイン語と文化Iの復習
02	第 3 課　主格人称代名詞、規則動詞の活用 ～ar、用法
03	第 3 課　規則動詞の活用～er、～ir、用法
04	第 3 課　疑問文 ：¿Qué...? ¿Cómo...? ¿Dónde...? 会話練習
05	第 4 課　不規則動詞の活用～ar、～er、～ir、用法
06	第 4 課　前置詞 (a, de, con) 、疑問詞 ¿A quién...? ¿De dónde...? ¿Con quién...?
07	会話練習、確認テスト（１）
08	第 8 課　動詞 querer の活用、動詞 querer の使い方
09	第 8 課　動詞 querer + 不定詞、会話練習
10	第 9 課　動詞 poder の活用、動詞 poder の使い方
11	第 9 課　動詞 poder + 不定詞、会話練習
12	ペルーの食文化体験かスペイン語の映画の紹介。　※文化体験
13	第10 課　動詞 tener の活用、動詞 tener の使い方、tener ＋名詞、
14	第10 課　動詞 tener + 数詞 + años、疑問文 ¿Cuántos ...? ¿Qué ...? 会話練習 ※ 学期末アンケート実施
15	年間学習内容のまとめ、確認テスト (2)
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11K1304　フランス語と文化Ⅰ	担当者:中島 潤	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
フランス語及びフランス語圏の文化について学びます。主に教科書を使って授業を進めていきますが、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用したいと思っています。カリキュラムポリシー「自主的・総合的に思考し判断しうる、情報処理能力、外国語運用能力、表現能力、問題発見・解決能力」を養う授業を目指します。フランスに興味のある学生さんは、気軽に参加してくださるとうれしいです。

授業の到達目標
学生が簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになる（DP）。具体的には、実用フランス語技能検定５級合格程度のフランス語能力を身につけることになります。さらに、フランスに限らず、ヨーロッパの文化について興味を深めてもらえれば素晴らしいと思います。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
フランス語を習得する上で、練習問題を予習することもあるかと思います。さらに、学習したことの定着をはかるため、授業中に学習した事項の復習をすることが望ましいです。私たちの生活にはさまざまなフランス文化の影響があるとおもわれます。そのようなものに日常的に気をつける態度が持てれば、さらに素晴らしいと思います。授業外に行うべき学修活動に準備学修事後学に必要な時間数（2時間）が必要となりますが、こちらについては授業で指示します。

評価方法
授業への参加態度60％
確認テスト40％（学期の最後に簡単な確認テストをする予定です）
フィードバックの方法：試験後にムードルで模範解答を公開・解説する

教科書	参考図書
ニコラ・ガイヤール他著、『新装 カフェ・フランセ』、朝日出版社　ISBN: 978-4255352626	特にありません

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
語学の学習は継続が重要です。理解できない項目があったら、必ず質問し、問題点を解決してください。連絡は、moodleまたはemailでお願いします（nnaakkaajjuunn@yahoo.co.jp）

01	授業の概要説明。アルファベなど。 簡単な単語の発音（日本語の中のフランス語）。 簡単な単語の発音（解説・発音練習・文法練習など）。 Leçon 1　自己紹介・国籍を言う（解説・発音練習・文法練習など） 授業の概要説明。アルファベなど。
02	簡単な単語の発音（日本語の中のフランス語）。
03	簡単な単語の発音（解説・発音練習・文法練習など）。
04	Leçon 1　挨拶をする・名前をいう（解説・発音練習・文法練習など）
05	Leçon 1　名前のスペルをいう（解説・発音練習・文法練習など）
06	Leçon 1　国籍をいう（解説・発音練習・文法練習など）
07	Leçon 2　職業をいう（解説・発音練習・文法練習など）
08	Leçon 2　出身地をいう（解説・発音練習・文法練習など）
09	Leçon 2　話せる言語を言う（解説・発音練習・文法練習など）
10	Leçon 3　専攻をいう（解説・発音練習・文法練習など）
11	Leçon 3　好きなことをいう（解説・発音練習・文法練習など）
12	文化体験学習（International Day）（予定）
13	Leçon 3　すんでいる国や都市をいう（解説・発音練習・文法練習など）
14	Leçon 4　否定する（解説・発音練習・文法練習など）
15	Leçon 4　何歳ですか（解説・発音練習・文法練習など）・確認テスト
16	

2024年度シラバス

科目名:OK12K1304　フランス語と文化Ⅱ	担当者:中島 潤	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
前期からの継続です。主に教科書を使って授業を進めていきますが、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用したいと思っています。カリキュラムポリシー「自主的・総合的に思考し判断しうる、情報処理能力、外国語運用能力、表現能力、問題発見・解決能力」を養う授業を目指します。フランスに興味のある学生さんは、気軽に参加してくださるとうれしいです。

授業の到達目標
学生が簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになる（DP）。前期からの継続です。具体的には、実用フランス語技能検定５級合格程度のフランス語能力を身につけることになります。さらに、フランスに限らず、ヨーロッパの文化について興味を深めてもらえれば素晴らしいと思います。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
フランス語を習得する上で、練習問題を予習することもあるかと思います。さらに、学習したことの定着をはかるため、授業中に学習した事項の復習をすることが望ましいです。私たちの生活にはさまざまなフランス文化の影響があるとおもわれます。そのようなものに日常的に気をつける態度が持てれば、さらに素晴らしいと思います。授業外に行うべき学修活動に準備学修事後学に必要な時間数（2時間）が必要となりますが、こちらについては授業で指示します。

評価方法
授業への参加態度60％
確認テスト40％（学期の最後に簡単な確認テストをする予定です）
フィードバックの方法：試験後にムードルで模範解答を公開・解説する

教科書	参考図書
ニコラ・ガイヤール他著、『新装 カフェ・フランセ』、朝日出版社　ISBN: 978-4255352626	特にありません

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
語学の学習は継続が重要です。理解できない項目があったら、必ず質問し、問題点を解決してください。連絡は、moodleまたはemailでお願いします（nnaakkaajjuunn@yahoo.co.jp）

01	Leçon 5　持ち物をいう（解説・発音練習・文法練習など）
02	Leçon 5　年齢をいう（解説・発音練習・文法練習など）
03	Leçon 5　行き先をいう（解説・発音練習・文法練習など）
04	Leçon 6　家事についてはなす（解説・発音練習・文法練習など）
05	Leçon 6　普段することを語る（解説・発音練習・文法練習など）
06	Leçon 6　人や物を描写する（解説・発音練習・文法練習など）
07	Leçon 7　所有をいう（解説・発音練習・文法練習など）
08	Leçon 7　電話番号をいう（解説・発音練習・文法練習など）
09	Leçon 7　欲しいものをいう（解説・発音練習・文法練習など）
10	Leçon 8　値段を尋ねる（解説・発音練習・文法練習など）
11	Leçon 8　食料品を買う（解説・発音練習・文法練習など）
12	Leçon 8　位置関係をいう（解説・発音練習・文法練習など）
13	Leçon 9　道順を説明する（解説・発音練習・文法練習など）
14	Leçon 9　命令する（解説・発音練習・文法練習など）
15	Leçon 9　質問をする（解説・発音練習・文法練習など）・確認テスト
16	

科目名:OK11K1305　中国語と文化Ⅰ	担当者:布 和	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: 特になし		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は、保育学部のポリシーである「他者と交流・協力し、学びあう力(豊かなコミュニケーション能力」及び国際学部のポリシーである「グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力」の育成に合致するもので、現代中国語の入門講義である。まずは、中国語発音の基礎である「ピンイン」を学習し、繰り返し練習した後に簡単なあいさつ文から徐々に簡単な会話を勉強する。また、講義の間にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付けるつもりである。この授業は後期に開講する中国語Ⅱを選択するための必修講義でもある（AL）。

授業の到達目標
１５回の講義を終えて、学生たちが中国語発音の基礎である「ピンイン」の発音ができる（DP）ようになること、また、流暢に簡単な会話文を読めるようになる（DP）を目標にしている。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解　◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくともそれぞれ２時間程度にしてほしい

評価方法
　欠席回数が６回になれば、単位を不認定する。成績は、授業参加意欲(50%)と確認テスト(50%)の結果を総合して評価する。なお、授業の最後に復習を行い、以ってフィードバックとしたい。

教科書	参考図書
『わくわくスタディ　実学実用初級中国語』陳淑梅・古屋順子　著　朝日出版社	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業内容は進度によって多少な変更が生じる。担当教員の連絡先及びオフィスアワーは授業中に知らせる。

01	授業紹介
02	発音の学習①中国語の母音
03	発音の学習②中国語の子音
04	発音学習のまとめ
05	第1課　会話
06	第1課　文法
07	第2課　会話
08	第2課　文法
09	小結
10	第3課　会話
11	第3課　文法
12	ナショナルディ
13	第3課　練習
14	第4課　会話
15	まとめと確認テスト
16	なし

科目名:OK12K1305　中国語と文化Ⅱ	担当者:布 和	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 中国語と文化Ⅰを履修した学生を対象にしている。		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この授業は、保育学部のポリシーである「他者と交流・協力し、学びあう力(豊かなコミュニケーション能力」及び国際学部のポリシーである「グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力」の育成に合致する現代中国語の初級講義である。毎回、新しい単語を解説し、本文の会話を繰り返し練習する。必要に応じて文法事項の説明も行う。また、講義の間にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付けるつもりである。この授業は前期に開講する中国語Ⅰを選択した上で履修する講義である（AL）。

授業の到達目標
　１５回の講義を終えて、学生たちが中国語で簡単な挨拶ができること（DP）、また、辞書を使えば簡単な文章が理解できる（DP））ようになることを目標にしている。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解　◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくともそれぞれ２時間程度にしてほしい。

評価方法
　欠席回数が６回になれば、単位を不認定する。成績は、授業参加意欲(50%)と確認テスト(50%)の結果を総合して評価する。なお、授業の最後に、これまでの内容を一緒に復習し、以ってフィードバックとしたい。

教科書	参考図書
『わくわくスタディ　実学実用初級中国語』陳淑梅・古屋順子　著　朝日出版社	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業内容は進度によって多少な変更が生じる。担当教員の連絡先及びオフィスアワーの時間は授業中に知らせる。

01	授業の紹介
02	第4課　文法
03	第4課　練習
04	第5課　会話
05	第5課　文法
06	第5課　練習
07	第6課　会話
08	小結
09	第6課　文法
10	第6課　練習
11	第7課　会話
12	第7課　文法
13	第7課　練習
14	第8課　会話
15	まとめと確認テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OK11K1306　韓国語と文化Ⅰ	担当者:金 三淑、金 昭鋏	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
他者と交流・協力し、学びあう力が求められる中、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高めるディプロマポリシーの一環として、韓国語と文化Ⅰでは韓国語の文字(ハングル)及び基礎文法を学びながら、簡単な日常会話を練習します。また、韓国の生きた文化に触れながら理解を深めていきます。

授業の到達目標
本授業は韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課の音源を聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約120分
事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約120分
K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
主体的に学習に取り組む姿勢(日々の授業の様子や授業後の感想記述内容などから評価する)20%、確認テスト　40%、課題　40%
授業において提示した課題（試験、レポート等）に対するフィードバック方法については授業終了後、全体的な講評、模範解答等をOhka moodle上あるいは印刷配付する。

教科書	参考図書
『ワンステップ韓国語』河　正一　著、朝日出版社	必要に応じて、授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
興味をもって学習をすすめることが大切だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。オフィスアワー：授業の前後の時間

01	ガイダンス、【文字編】　第1課①　韓国・朝鮮語の特徴
02	【文字編】　第1課②　基本母音
03	【文字編】第2課①　基本子音（平音）
04	【文字編】第2課②　基本子音（激音、濃音）
05	まとめ、確認テスト（１）
06	【文字編】第3課　複合母音
07	【文字編】第４課　終声（パッチム）、子音の名称
08	まとめ、確認テスト（２）、文化体験Ⅰ　映画鑑賞①
09	文化体験Ⅰ　映画鑑賞②
10	【文字編】第５課①　発音の変化（有声音化、連音化　等）
11	【文字編】第５課②　発音の変化（濃音化、鼻音化　等）
12	まとめ、確認テスト（３）、日本語のハングル表記
13	【文法編】第1課①　挨拶をする。文法と本文
14	【文法編】第1課②　挨拶をする。総合練習、漢字の読み「大学生」
15	まとめ、確認テスト（４）
16	なし

科目名:OK12K1306　韓国語と文化Ⅱ	担当者:金 三淑、金 昭鋏	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
他者と交流・協力し、学びあう力が求められる中、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高めるディプロマポリシーの一環として、韓国語と文化Ⅱでは韓国語と文化Ⅰに引き続き韓国語の基礎文法を学びながら、簡単な日常会話及び自己紹介を練習します。授業は、テキストを中心に進めますが、ペアーワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めていきます。韓国の大学生とリモートで「おしゃべりカフェ」に参加します。(AL)

授業の到達目標
本授業は韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができる。(DP)　みんなの前で自己紹介ができるようになる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課の音源を聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約120分
事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約120分
K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
主体的に学習に取り組む姿勢(日々の授業の様子や授業後の感想記述内容などから評価する)　20%
確認テスト　40%、課題　30%、「おしゃべりカフェ」の準備　10%
授業において提示した課題（試験、レポート等）に対するフィードバック方法については授業終了後、全体的な講評、模範解答等をOhka moodle上あるいは印刷配付する。

教科書	参考図書
『ワンステップ韓国語』河　正一　著、朝日出版社	必要に応じて、授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
興味をもって学習をすすめることが大切だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。オフィスアワー：授業の前後の時間

01	ガイダンス、前期の内容の復習
02	【文法編】第２課①　状況を説明する。文法と本文
03	【文法編】第２課②　状況を説明する。総合練習、漢字の読み「国語」
04	まとめ、確認テスト（１）
05	【文法編】第３課①　買い物をする。文法と本文
06	【文法編】第３課②　買い物をする。総合練習、漢字の読み「映画」
07	まとめ、確認テスト（２）
08	日韓大学生オンラインおしゃべりカフェの準備
09	日韓大学生オンラインおしゃべりカフェに参加
10	【文法編】第４課①　予定を述べる１。文法と本文
11	【文法編】第４課②　予定を述べる１。総合練習、漢字の読み「前後」
12	確認テスト（３）（自己紹介）
13	文化体験Ⅱ　韓国の歌など
14	【文法編】합니다体・해요体のまとめ
15	まとめ、確認テスト（４）
16	なし

科目名:OK11K1401　基礎演習Ⅰ	担当者:井川 恵理、小林 愛明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: PCを持参すること。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
国際学部のディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」といった「社会人基礎力」を育成する科目である。[DP] その育成のため、大学での学び方、自主学修、グループワーク、情報収集、情報提供や思考の表現また、ICTを用いたコミュニケーションの方法などを実践的に行う。[AL]

授業の到達目標
①自分の現在の能力を批判的に分析し、大学生活での各自の目標を明確にすることができる。【DP】
②社会人基礎力とは何かを理解し、そのために必要な実践計画（アクションプラン）を設定することができる。【DP】③自主的な学修とグループワークをバランスよく実践することができる。【DP】
④他者とのコミュニケーションにおいて、相手を尊重し、礼儀正しい言葉遣いや様式を用いることができる。【DP】⑤批判的思考ができ、論理的で想像的な発信ができる能力を身につけるために必要な学修をすることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①各自が設定した目標に向けて秩序ある生活を送る。
②自主的な学修とグループワークをバランスよく実践するため、各自が課題に真摯に取り組み、伝達を適宜行い、協力する。後期に行われる大学祭の準備は前期に始まるため、皆が協力して考え、取り組む。
③国内外の社会に対して関心をもち、新聞・TV・ウェブサイト上の各種ニュース、書籍からの情報を常に収集し、考察する習慣を身につける。
④各種委員や係など、各自の分担を自覚し、常に授業で皆に情報提供や意見交換ができるよう準備する。
⑤上記の準備・事後学修のため、週２時間以上を必要とする。

評価方法
授業における取り組み（自主的取り組み、グループワークでの協力、「社会人基礎力シート」）(60%)、「英語と私」感想シート（10%)、キャリアデザインシート（10%）、CR（10%）、フィールドワークシート（10%）、フィードバックは、Moodle上の提出物については同サイト上でフィードバック、紙媒体については直接のコメント・評価を付記することで行う。

教科書	参考図書
プリント資料配布。	授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①大学生活の基本となる授業なので、積極的に取り組む。
②連絡先　井川: ikawa@ohkagakuen-u.ac.jp（研究室7310）、小林:（授業内で紹介）
③オフィスアワー　授業で公開する。

01	基礎演習I のガイダンス（フレッシュマンセミナーの振り返り、シラバス確認、各種活動の説明） 国際学部、大学全体の行事、その意義、役割説明
02	国際学部、大学全体の行事、その意義、役割分担
03	「桜花学園大学の歴史と建学の精神」（副学長の講和）
04	「英語と私（なぜ日本人は英語が苦手なのか）」（学長の講話）＜「英語と私」感想シート提出＞
05	「私の大学生活設計」（概論：大学生の基礎知識・情報「社会人基礎力とは何か」） 「私の大学生活設計」（概論：大学生の基礎知識・情報「社会人基礎力とは何か」）
06	「私の大学生活設計」（キャリアデザインシート　作成）
07	「私の大学生活設計」（キャリアデザインシート　発表）
08	地域の文化を知る：有松フィールドワーク（天候により日程変更の場合あり）
09	ICTを用いたコミュニケーション（PC等を用いてメール連絡をする方法）
10	大学での学修方法（レポートの書き方）説明
11	美しいメールの作成方法　大学祭（名桜祭）とは
12	大学祭（名桜祭）目的を意識し、準備を開始しよう 大学祭（名桜祭）準備　コンセプト作り
13	大学祭（名桜祭）準備　コンセプトを形にしよう
14	社会人基礎力シートまとめ（これまでのシートをグラフにして自分の強み、弱みを分析しよう）
15	「基礎演習I」と前期の大学生活を振り返ろう＜Course Reflection の作成・提出＞ 夏季課題
16	なし

科目名:OK11K1401　基礎演習Ⅰ	担当者:髙橋 一郎、田端 智美、木村 達志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本演習を通して、学び合う仲間と協力し、積極的に教育・保育に関する知識や技能を習得して国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と基礎知識を身につける。また保育者としての実践力・応用力（子どもの前で話す・演じる・教える）、発表する力（自分の意見を他者に伝える、堂々と発表する）が身につくことを目標とする。

授業の到達目標
仲間と交流・協力することを軸として次の3つの力を身につける。 (DP)① 保育者としての基礎力（記述する・ICTスキル）② 保育者としての実践力(子どもの前で話す・演じる・教える)③ 発表する力(自分の意見を他人に伝える・人前で堂々と発表する)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業・MOODLE・メール等で指示を行う積極的に絵本の読み聞かせや手遊びなどを練習し、保育実践力を高めてください

評価方法
提出課題の内容(50点)、発表を含んだ授業への参加態度(50点)として合計100点満点で評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書 特になし	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　代表tabata@ohkagakuen-u.ac.jp 積極的に授業に参加してください。

01	前期の学びについてのオリエンテーション 2🄿ポートの書き方講座・ポートフォリオについて 3🄿ポートの書き方実践・GWの課題 4🄿ポート(GW課題)の発表 5🅃ランティア講座・キャリアデザイン講座 6🄿育の技術を磨く１（制作遊びと模擬保育） 7🄿育の技術を磨く２（制作遊び英語ver.と模擬保育） 8🄿育の技術を磨く３（音楽遊びの模擬保育） 9🄿育の技術を磨く４（音楽遊び英語ver.の模擬保育） 10🄿育の技術を磨く５（ダンス遊びの模擬保育） 11🄿育の技術を磨く
02	日本の伝統文化に関する芸術鑑賞とレポートの書き方
03	桜花学園の歴史と建学の精神
04	学びのデザインについて
05	日本の食プロジェクト１（SDGsを通して）
06	ニュージーランドのティ・ファリキについて学ぼう１（ラーニングストーリーを読む）
07	ニュージーランドのティ・ファリキについて学ぼう２（発表）
08	日本の食プロジェクト２（農業を通して）
09	学科運営行事
10	日本の伝統文化について
11	日本の伝統文化を紹介するために①(日本文化を調べる)
12	日本の伝統文化を紹介するために②（発表の準備）
13	日本の伝統文化を紹介する発表会①（前半グループ）（AL）
14	日本の伝統文化を紹介する発表会②（後半グループ）（AL）
15	夏休みの課題と後期に向けて
16	なし

科目名:OK11K1401　基礎演習Ⅰ	担当者:上村 晶、松永 康史、武藤 直子、藤井 七瀬、嶋守 さやか、内田 将平、五十嵐 睦美、堀 由里	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業は大学での学習の基礎固めという位置づけで、アカデミックスキルズを中心に学んでいきます。特に、今後の学習の中で必要となる、文献・資料検索の方法、レジュメ・レポートの作成についてグループワーク等を取り入れながら学習していきます。また、自分がまとめたレジュメやレポートの発表を通して、自己発信力のトレーニングも行っていきます。さらに、授業内ではPCを使用しながら、タスクをこなしていくことで、基本的なICTスキルを身につけていきます。ボランティア・体験学習の意義を知り、実際に計画・体験します。

授業の到達目標
　各人の学びの成果を発表し、ゼミメンバーの「考え方」に傾聴し共有すること、能動的に学習すること。ゼミメンバーと交流・協力することを軸として、①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポートの作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。④体験学習での気づきを交流し学びを深める。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業、Moodle、メール等で毎回指示をする。

評価方法
提出課題の内容60%、発表、討論の内容を含んだ授業への参加態度40%
各課題の後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
課題文献については授業内で指示する。	授業時に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この科目は4年間の学びの基礎作りをする重要な科目であるため、積極的な取り組みをするよう心がけてください。

01	ガイダンス
02	大学での学びとは
03	桜花学園の歴史と建学の精神
04	図書館の利用について
05	ボランティア活動について
06	スペシャリストについて①「保育技術・実践探求領域」＆各ゼミによる深め合い
07	スペシャリストについて②「子ども表現・創造探求領域」＆各ゼミによる深め合い
08	スペシャリストについて③「子ども理解・支援探求領域」＆各ゼミによる深め合い
09	スペシャリストについて④「義務教育領域」＆各ゼミによる深め合い
10	文献検索、レポートの書き方について
11	資料輪読とレジュメの作成
12	レポート作成・ゼミごとの学び
13	レポートの発表・意見交換
14	PROGテスト
15	学びのカルテについて・前期のまとめ
16	なし

科目名:OK12K1401　基礎演習Ⅱ	担当者:井川 恵理、小林 愛明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: PCを持参すること。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
国際学部のディプロマポリシーにある「国際社会の多岐にわたる問題について批判的思考ができ、論理的で創造的な発信ができ、主体的に行動できる能力」といった「社会人基礎力」を育成する科目である。[DP] その育成のため、大学での学び方、自主学修、グループワーク、情報収集、情報提供や思考の表現また、ICTを用いたコミュニケーションの方法などを実践的に行う。

授業の到達目標
①自分の現在の能力を批判的に分析し、大学生活での各自の目標を明確にすることができる。【DP】
②社会人基礎力とは何かを理解し、そのために必要な実践計画（アクションプラン）を設定することができる。【DP】③自主的な学修とグループワークをバランスよく実践することができる。【DP】
④他者とのコミュニケーションにおいて、相手を尊重し、礼儀正しい言葉遣いや様式を用いることができる。【DP】⑤批判的思考ができ、論理的で想像的な発信ができる能力を身につけるために必要な学修をすることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①各自が設定した目標に向けて秩序ある生活を送る。
②自主的な学修とグループワークをバランスよく実践するため、各自が課題に真摯に取り組み、伝達を適宜行い、協力する。大学祭等、さまざまな行事の準備や運営、事後の振り返りまで、皆が協力して考え、取り組む。
③国内外の社会に対して関心をもち、新聞・TV・ウェブサイト上の各種ニュース、書籍からの情報を常に収集し、考察する習慣を身につける。
④各種委員や係など、各自の分担を自覚し、常に授業で皆に情報提供や意見交換ができるよう準備する。
⑤上記の準備・事後学修のため週2時間を必要とする。

評価方法
授業における取り組み（自主的取り組み、グループワークでの協力、「社会人基礎力シート」）（50%)、夏休みの課題レポート（10%）、Semester Learning Portfolio（10%)、名桜祭参加シート（10%）、Course Reflection（10%)、学期末TOEIC L&R IP受験（5%）、言語学修室利用シート（5%）フィードバックの方法：紙媒体の提出物は直接のコメント記入、Moodle上の提出物には同サイトにて評価コメントを記す。

教科書	参考図書
プリント資料配布。	授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①大学生活の基本となる授業なので、積極的に取り組む。
②連絡先：　井川：ikawa@ohkagakuen-u.ac.jp、研究室7310、小林：（授業にて紹介）
③オフィスアワー　授業で公開する。

01	基礎演習IIのガイダンス（シラバス確認、各種行事や活動の確認、「社会人基礎力」、夏休み課題報告）
02	夏休み課題報告会、Semester Learning Portfolioとは、大学祭プロジェクトの目的
03	Semester Learning Portfolio 準備、大学祭プロジェクト
04	Semester Learning Portfolio 完成、報告会
05	大学祭プロジェクト準備：役割分担
06	大学祭プロジェクト準備：分担作業
07	大学祭プロジェクト直前確認：シミュレーション
08	大学祭プロジェクト振り返り、ディベートにチャレンジ!（ディベートとは）
09	ディベートにチャレンジ！社会を知る　(1)　テーマを設定しよう
10	ディベートにチャレンジ！社会を知る（2）図書館等を活用してデータを集めよう
11	ディベートにチャレンジ！社会を知る（3）賛成・反対、両方の意見を準備しよう
12	ディベートにチャレンジ！社会を知る（4）立場の違いを理解して実践
13	社会人基礎力シートのまとめ　グラフを作って自分の強み、弱みを理解しよう
14	振り返り（Course Reflection 準備）、言語学修室利用シート提出
15	TOEIC Listening & Reading IP受験
16	基礎演習と社会人基礎力

2024年度シラバス

科目名:OK12K1401　基礎演習Ⅱ	担当者:髙橋 一郎、田端 智美、木村 達志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本演習を通して、学び合う仲間と協力し、積極的に教育・保育に関する知識や技能を習得して国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と基礎知識を身につける。また保育者としての実践力・応用力（子どもの前で話す・演じる・教える）、発表する力（自分の意見を他者に伝える、堂々と発表する）が身につくことを目標とする。

授業の到達目標
友人と交流・協力することを軸として次の3つの力を身につける。 (DP)① 保育者としての基礎力・応用力（観察する・記述する・ICTスキル）② 保育者としての実践力・応用力(子どもの前で話す・演じる・教える)③ 発表する力(自分の意見を、PPを使って他人に伝える・人前で堂々と発表する)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業・MOODLE・メール等で指示を行う

評価方法
提出課題の内容(50点)、発表を含んだ授業への参加態度(50点)として合計100点満点で評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
特になし	授業内で指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　代表tabata@ohkagakuen-u.ac.jp 積極的に授業に参加してください。

01	後期の始まりにあたって・農業体験
02	後期の学びについてのオリエンテーション（学びのカルテ）
03	チームで保育を行うことについて（話し合い）
04	チームで保育を行うことについて（共同性）
05	農業体験（芋掘り）
06	チームで保育を行うことについて（実践）
07	2年ゼミとの交流会
08	世界の子どもたちのために①説明
09	世界の子どもたちのために②調べ
10	世界の子どもたちのために③PP作成
11	発表会（前半グループ）
12	発表会（後半グループ）
13	学部運営行事
14	１年のまとめ（ポートフォリオの作成）
15	１年のまとめ（発表）
16	なし

科目名:OK12K1401　基礎演習Ⅱ	担当者:上村 晶、松永 康史、武藤 直子、藤井 七瀬、嶋守 さやか、内田 将平、五十嵐 睦美、堀 由里	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業は「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学での学習の基礎固めという位置づけで、アカデミックスキルズを中心に学んでいきます。特に、今後の学習の中で必要となる、文献・資料の検索方法、レジュメ・レポートの作成についてグループワーク等を取り入れながら学習します。また、自分がまとめたレジュメやレポートの発表を通して、自己発信力のトレーニングも行っていきます。さらに、授業内ではPCを使用しながらタスクをこなしていくことで、基本的なICTスキルを身につけていきます。

授業の到達目標
学びの成果を発表し、「考え方」に傾聴し共有すること、能動的に学習すること。ゼミメンバーと交流・協力することを軸として、①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポートの作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。④体験学習での気づきを交流し学びを深める。
[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業、Moodle、メール等で毎回指示をする。

評価方法
提出課題の内容60%、発表、討論の内容を含んだ授業への参加態度40%
各課題の後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
課題文献については授業内で指示する。	授業時に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
冬休み課題として「子ども発見シート」を書きます。

01	学びのカルテの振り返り、学外体験の報告、PROGテストの活用について
02	子育て支援室訪問（後期に1回）
03	子育て支援室の訪問計画等
04	輪読に向けた文献の決定
05	文献輪読（１冊目）
06	レジュメ作成
07	ゼミ独自の学び（大学祭に向けて）
08	文献輪読（２冊目）
09	レポート作成
10	レポート発表とグループディスカッションー前半
11	レポート発表とグループディスカッションー後半
12	子ども発見シートの作成について、ゼミ独自の学び
13	スペシャリスト選択に向けたオムニバス講義
14	子ども発見シートの発表と意見交換
15	後期の振り返り、2年生に向けて
16	なし